

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	カッポホウジン トウキョウノキョウダクガク 学校法人 東京農業大学							
フリガナ大学の名称	トウキョウノキョウダクガク 東京農業大学 (Tokyo University of agriculture)							
大学本部の位置	東京都世田谷区桜丘1丁目1番1号							
大学の目的	本大学は、その伝統及び私立大学の特性を活かしつつ、教育基本法の精神に則り、生命科学、環境科学、情報科学、生物産業学等を含む広義の農学の理論及び応用を教授し、有能な人材を育成すると共に、前記の学術分野に関する研究及び研究者の養成をなすことを使命とする。							
新設学部等の目的	東京農業大学の建学の精神「人物を畑に還す」を理念とし、水資源や食料生産、環境保全等の役割を担ってきた農山村地域の保全・再生、持続的発展に向けて、生物多様性や生態系に配慮した土地利用方法、地域防災や農業基盤に関連する保全・管理技術、環境アセスメント手法や環境教育・地域マネジメント手法などの幅広い専門的能力とその運用法を習得し、積極的に行動できる地域社会の担い手・地域のリーダーとなる人材の育成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	地域環境科学部 [Faculty of Regional Environment Science]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	東京都世田谷区桜丘1丁目1番1号
	地域創成科学科 [Department of Regional Regeneration Science]	4	80	—	320	学士（農学）	平成29年4月 第1年次	同上
	計	—	80	—	320			
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）	<p>東京農業大学</p> <p>応用生物科学部</p> <p>バイオサイエンス学科（廃止） (△140) (3年次編入学定員) (△10) ※平成29年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は平成31年4月学生募集停止)</p> <p>生物応用化学科 (3年次編入学定員) (△10) 醸造科学科 (3年次編入学定員) (△20) 食品安全健康学科 (3年次編入学定員) (△10) 栄養科学科 (3年次編入学定員) (△4)</p> <p>生命科学部 (平成28年4月届出予定)</p> <p>バイオサイエンス学科 (140) 分子生命化学科 (115) 分子微生物学科 (115)</p> <p>地域環境科学部</p> <p>森林総合科学科 [定員減] (△20) (3年次編入学定員) (△6) 生産環境工学科 [定員減] (△20) (3年次編入学定員) (△3) 造園科学科 [定員減] (△20) (3年次編入学定員) (△20)</p> <p>国際食料情報学部</p> <p>国際農業開発学科 (3年次編入学定員) (△10) 食料環境経済学科 [定員減] (△40) (3年次編入学定員) (△10) 国際バイオビジネス学科 [定員減] (△30) (3年次編入学定員) (△5) 国際食農科学科 (100) (平成28年4月届出予定)</p> <p>※3年次編入学定員は平成31年4月から定員減</p>							

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		東京農業大学 短期大学部 (廃止) 生物生産技術学科 (△130) 環境緑地学科 (△70) 醸造学科 (△80) ※平成29年4月学生募集停止 東京情報大学 総合情報学部 総合情報学科 [定員減] (△100) (平成29年4月) 看護学部 看護学科 (100) (平成28年3月認可申請)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	地域創成科学科	80科目	5科目	11科目	96科目	124単位			
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
新設	地域環境科学部		9	2	—	2	13	—	59
	地域創成科学科		(6)	(1)	(—)	(1)	(8)	(—)	(40)
設	生命科学部		10人	3人	—人	6人	19人	—人	66人
	バイオサイエンス学科		(11)	(2)	(—)	(6)	(19)	(—)	(49)
分	分子生命化学科		8	4	—	2	14	—	49
	分子微生物学科		(6)	(4)	(—)	(2)	(12)	(—)	(39)
既	国際食料情報学部		9	1	—	5	15	—	52
	国際食農科学科		(9)	(1)	(—)	(4)	(14)	(—)	(38)
組	国際食料情報学部		6	5	—	3	14	—	73
	国際食農科学科		(4)	(4)	(—)	(2)	(10)	(—)	(50)
織	計		42	15	—	18	75	—	—
			(36)	(12)	(—)	(15)	(63)	(—)	(—)
の	農学部		13	6	—	6	25	—	77
	農学科		(15)	(6)	(—)	(4)	(25)	(—)	(77)
概	畜産学科		8	7	—	6	21	—	84
			(9)	(6)	(—)	(6)	(21)	(—)	(84)
要	バイオセラピー学科		8	6	—	3	17	—	98
			(9)	(6)	(—)	(2)	(17)	(—)	(98)
分	応用生物科学部		6	6	—	8	20	—	92
	生物応用化学科		(7)	(5)	(—)	(7)	(19)	(—)	(92)
計	醸造科学科		6	7	—	5	18	—	90
			(5)	(6)	(—)	(4)	(15)	(—)	(90)
合	食品安全健康学科		6	6	—	6	18	—	104
			(6)	(5)	(—)	(7)	(18)	(—)	(104)
計	栄養科学科		8	5	—	6	19	6	122
			(10)	(2)	(—)	(7)	(19)	(6)	(122)
分	地域環境科学部		12	6	—	2	20	—	89
	森林総合科学科		(11)	(6)	(—)	(2)	(19)	(—)	(89)
計	生産環境工学科		8	9	—	2	19	—	89
			(7)	(7)	(—)	(2)	(16)	(—)	(89)
分	造園科学科		9	6	—	3	18	—	95
			(10)	(6)	(—)	(3)	(19)	(—)	(95)
計	国際食料情報学部		12	4	—	4	20	—	105
	国際農業開発学科		(13)	(5)	(—)	(3)	(21)	(—)	(105)
分	食料環境経済学科		10	6	—	4	20	—	109
			(11)	(6)	(—)	(1)	(18)	(—)	(109)
計	国際バイオビジネス学科		7	5	—	4	16	—	114
			(9)	(5)	(—)	(4)	(18)	(—)	(114)
分	生物産業学部		5	9	—	2	16	—	102
	生物生産学科		(5)	(9)	(—)	(2)	(16)	(—)	(102)
計	アクアバイオ学科		6	6	—	3	15	—	102
			(6)	(6)	(—)	(3)	(15)	(—)	(102)
分	食品香粧学科		10	4	—	3	17	—	103
			(11)	(4)	(—)	(2)	(17)	(—)	(103)
計	地域産業経営学科		6	7	—	1	14	—	98
			(6)	(7)	(—)	(1)	(14)	(—)	(98)
分	教職・学術情報課程		8	4	—	3	15	—	55
			(8)	(4)	(—)	(3)	(15)	(—)	(55)
計	計		148	109	—	71	328	6	—
			(158)	(101)	(—)	(63)	(322)	(6)	(—)
計	合計		157	111	—	73	341	6	—
			(164)	(102)	(—)	(64)	(330)	(6)	(—)
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		145人		43人		188人		
			(145)		(43)		(188)		
	技 術 職 員		23		6		29		
			(23)		(6)		(29)		
図 書 館 専 門 職 員		0		0		0			
		(0)		(0)		(0)			
そ の 他 の 職 員		1		2		3			
		(1)		(2)		(3)			
計		169		51		220			
		(169)		(51)		(220)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	東京農業大学第一高等 学校(収容定員 1,050人、面積基準 運動場8,400㎡)、中 等部(収容定員450 人、面積基準 運動 場4,950㎡)と共用 借用面積：3,570.24 ㎡ 借用期間：60年				
	校 舎 敷 地	354,079.78㎡	0㎡	15,350.76㎡	369,430.54㎡					
	運 動 場 用 地	31,147.98㎡	30,935.81㎡	6,453.99㎡	68,537.78㎡					
	小 計	385,227.76㎡	30,935.81㎡	21,804.75㎡	437,968.32㎡					
	そ の 他	2,665,550.34㎡	0㎡	0㎡	2,665,550.34㎡					
合 計	3,050,778.10㎡	30,935.81㎡	21,804.75㎡	3,103,518.66㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	東京農業大学短期大 学部(収容定員0 人、面積基準2,000 ㎡)の学生が在学し なくなり廃止するま での間、同短期大学 部と共用				
		192,434.29㎡ (105,326.99㎡)	0㎡ (82,976.27㎡)	0㎡ (4,131.03㎡)	192,434.29㎡ (192,434.29㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	103室	100室	673室	8室 (補助職員2人)	1室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 地域創成科学科		室 数		4 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	○図書 (大学全体での共用 分199,810冊 〔20,381冊〕) ○学術雑誌、電子 ジャーナル(世田 谷・厚木キャンパス 数) ○視聴覚資料 (世田谷・厚木キャン パス全所蔵) ○標本 学部単位での特定不 能なため、大学全体 の数		
	地域創成科学科	342,218〔54,566〕 (314,221〔51,824〕)	10,535〔7,139〕 (10,535〔7,139〕)	7,322〔6,570〕 (7,322〔6,570〕)	6,143 (6,143)	955 (931)	33,777 (33,777)			
	計	342,218〔54,566〕 (314,221〔51,824〕)	10,535〔7,139〕 (10,535〔7,139〕)	7,322〔6,570〕 (7,322〔6,570〕)	6,143 (6,143)	955 (931)	33,777 (33,777)			
図 書 館		面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		8,026.19㎡		1,383	1,162,000					
体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		10,371.27㎡		野 球 場 2 面 テ ニ ス コ ー ト 6 面						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・データ ベースの整備費及び 雑誌資料費を含む。
		教員1人当り研究費等		331千円	316千円	316千円	317千円	—	—	
		共同研究費等		7,082千円	6,192千円	6,192千円	6,207千円	—	—	
		図書購入費	0千円	2,267千円	4,464千円	6,630千円	8,755千円	—	—	
	設備購入費	44,916千円	47,615千円	50,542千円	10,305千円	13,531千円	—	—		
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,435.6千円	1,295.6千円	1,335.6千円	1,365.6千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金収入、寄付金収入、手数料収入等								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	東 京 農 業 大 学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	農学部	年	人	年次 人	人		倍		神奈川県厚木市船 子1737番地	
	農学科	4	220	3年次 16	912	学士(農学)	1.14	昭和24年度	同上	
	畜産学科	4	180	3年次 10	740	学士(農学)	1.13	昭和24年度	同上	
	バイオセラピー学科	4	140	3年次 10	580	学士(農学)	1.15	平成18年度	同上	
	応用生物科学部						1.12		東京都世田谷区桜 丘1丁目1番1号	
	バイオサイエンス学科	4	140	3年次 10	580	学士(応用生 物科学)	1.15	平成10年度	同上	
	生物応用化学科	4	140	3年次 10	580	学士(応用生 物科学)	1.13	平成10年度	同上	
	醸造科学科	4	140	3年次 20	600	学士(応用生 物科学)	1.16	平成10年度	同上	
食品安全健康学科	4	140	3年次 10	280	学士(応用生 物科学)	1.14	平成26年度	同上		
栄養科学科 食品栄養学専攻	4	—	—	—	学士(応用生 物科学)	—	平成10年度	平成26年度より学 生募集停止		
栄養科学科	4	120	3年次 4	368	学士(応用生 物科学)	1.00	平成10年度	平成27年度入学定 員増(40人)		

既 設 大 学	地域環境科学部								1.15		同上
	森林総合科学科	4	140	3年次 6	572	学士（地域環境科学）			1.15	平成10年度	同上
	生産環境工学科	4	140	3年次 3	566	学士（地域環境科学）			1.15	平成10年度	同上
	造園科学科	4	140	3年次 20	600	学士（地域環境科学）			1.15	平成10年度	同上
	国際食料情報学部								1.14		同上
	国際農業開発学科	4	140	3年次 10	580	学士（国際食料情報学）			1.15	平成10年度	同上
	食料環境経済学科	4	220	3年次 10	900	学士（国際食料情報学）			1.14	平成10年度	同上
	国際バイオビジネス学科	4	170	3年次 5	690	学士（国際食料情報学）			1.15	平成10年度	同上
	生物産業学部								1.15		北海道網走市八坂196番地
	生物生産学科	4	100	3年次 10	420	学士（農学）			1.14	平成元年度	同上
	アクアバイオ学科	4	80	—	320	学士（農学）			1.15	平成18年度	同上
	食品香粧学科	4	80	3年次 5	344	学士（農学）			1.15	平成元年度	同上
	地域産業経営学科	4	90	3年次 5	380	学士（経営学）			1.17	平成元年度	同上
	大 学 の 名 称 東 京 農 業 大 学 大 学 院										
学 部 等 の 名 称 修 業 年 限 入 学 定 員 編 入 学 員 定 員 収 容 定 員 学 位 又 は 称 号 定 員 超 過 率 開 設 年 度 所 在 地											
等 の 状 況	農学研究科 博士前期課程								1.08		神奈川県厚木市船子1737番地
	農学専攻	2	14	—	28	修士（農学）			1.13	昭和28年度	同上
	畜産学専攻	2	12	—	24	修士（畜産学）			0.74	昭和61年度	同上
	バイオセラピー学専攻	2	10	—	20	修士（バイオセラピー学）			0.70	平成22年度	同上
	バイオサイエンス専攻	2	30	—	60	修士（バイオサイエンス）			1.38	平成14年度	東京都世田谷区桜丘1丁目1番1号
	農芸化学専攻	2	25	—	50	修士（農芸化学）			1.04	昭和32年度	同上
	醸造学専攻	2	12	—	24	修士（醸造学）			2.04	平成2年度	同上
	食品栄養学専攻	2	12	—	24	修士（食品栄養学）			0.79	昭和61年度	同上
	林学専攻	2	12	—	24	修士（林学）			0.83	昭和61年度	同上
	農業工学専攻	2	8	—	16	修士（農業工学）			1.18	平成2年度	同上
	造園学専攻	2	12	—	24	修士（造園学）			0.91	平成2年度	同上
	国際農業開発学専攻	2	12	—	24	修士（国際農業開発学）			1.41	平成2年度	同上
	農業経済学専攻	2	10	—	20	修士（農業経済学）			0.45	昭和28年度	同上
	国際バイオビジネス学専攻	2	12	—	24	修士（国際バイオビジネス学）			1.08	平成14年度	同上

既 設 大 学 等 の 状 況	農学研究科 博士後期課程						0.32		神奈川県厚木市船 子1737番地	
	農学専攻	3	5	—	15	博士（農学）	0.26	昭和37年度	同上	
	畜産学専攻	3	4	—	12	博士（畜産 学）	0.33	平成2年度	同上	
	バイオセラピー学専攻	3	3	—	9	博士（バイオ セラピー学）	0.22	平成24年度	同上	
	バイオサイエンス専攻	3	6	—	18	博士（バイオ サイエンス）	0.33	平成16年度	東京都世田谷区桜 丘1丁目1番1号	
	農芸化学専攻	3	5	—	15	博士（農芸化 学）	0.13	昭和34年度	同上	
	醸造学専攻	3	2	—	6	博士（醸造 学）	0.00	平成14年度	同上	
	食品栄養学専攻	3	2	—	6	博士（食品栄 養学）	0.66	平成14年度	同上	
	林学専攻	3	4	—	12	博士（林学）	0.25	平成2年度	同上	
	農業工学専攻	3	2	—	6	博士（農業工 学）	0.50	平成14年度	同上	
	造園学専攻	3	3	—	9	博士（造園 学）	0.22	平成14年度	同上	
	国際農業開発学専攻	3	2	—	6	博士（国際農 業開発学）	1.00	平成14年度	同上	
	農業経済学専攻	3	5	—	15	博士（農業経 済学）	0.33	昭和37年度	同上	
	国際バイオビジネス学専攻	3	5	—	15	博士（国際バイ オビジネス学）	0.20	平成16年度	同上	
	環境共生学専攻	3	5	—	15	博士（環境共 生学）	0.53	平成2年度	同上	
	生物産業学研究科 博士前期課程						1.07		北海道網走市八坂 196番地	
生物生産学専攻	2	7	—	14	修士（生物作 業学）	0.71	平成22年度	同上		
アควアバイオ学専攻	2	5	—	10	修士（生物産 業学）	1.40	平成22年度	同上		
食品香粧学専攻	2	5	—	10	修士（生物産 業学）	1.00	平成22年度	同上		
産業経営学専攻	2	3	—	6	修士（経営 学）	1.50	平成22年度	同上		
生物産業学研究科 博士後期課程								同上		
生物産業学専攻	3	8	—	24	博士（生物産業学又 は経営学）	0.29	平成7年度	同上		
大学の名称		東京情報大学								
学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地	
		年	人	年次 人	人		倍			
状 況	総合情報学部						0.95		千葉県千葉市若葉区 御成台4丁目1番地	
	情報システム学科	4	—	—	—	学士（総合情 報学）	—	平成13年度	同上	平成25年度より学 生募集停止
	環境情報学科	4	—	—	—	学士（総合情 報学）	—	平成13年度	同上	平成25年度より学 生募集停止
	情報ビジネス学科	4	—	—	—	学士（総合情 報学）	—	平成13年度	同上	平成25年度より学 生募集停止
	情報文化学科	4	—	—	—	学士（総合情 報学）	—	平成8年度	同上	平成25年度より学 生募集停止
総合情報学科	4	500	10	1,510	学士（総合情 報学）	0.95	平成25年度	同上	平成25年度届出設 置	

既設	大学の名称	東京情報大学大学院							所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
		年	人	年次人	人		倍		
	総合情報学研究科 博士前期課程	2	15	—	30	修士（総合情報学）	0.46	平成4年度	
大学の状況	大学の名称	東京農業大学短期大学部							所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
		年	人	年次人	人		倍		
	短期大学部						1.15		東京都世田谷区桜丘1丁目1番1号 同上
	生物生産技術学科	2	130	—	260	短期大学士（生物生産技術学）	1.13	平成4年度	同上
	環境緑地学科	2	70	—	140	短期大学士（環境緑地学）	1.17	平成4年度	同上
	醸造学科	2	80	—	160	短期大学士（醸造学）	1.18	平成4年度	同上
	栄養学科	2	—	—	—	短期大学士（栄養学）	—	平成4年度	同上
況									平成27年度より学生募集停止
附属施設の概要		名称 （所在地）	目的 （規模等）				設置年月		
		1 図書館 （東京都世田谷区桜丘1-1-1）	学生の学習・研究活動の支援施設				平成26年4月		
		学術情報センター（図書館） （神奈川県厚木市船子1737）	学生の学習・研究活動の支援施設				平成10年4月		
		学術情報センター（図書館） （北海道網走市八坂196）	学生の学習・研究活動の支援施設				平成元年4月		
		2 農学部の附属施設							
		農学研究所 （神奈川県厚木市船子1737）	農業・園芸・畜産・動植物研究				平成10年4月		
		食品加工技術センター （神奈川県厚木市船子1737）	食品加工に関する実践的教育・研究				平成16年4月		
		伊勢原農場 （神奈川県伊勢原市三ノ宮前畑）	作物・園芸・環境緑化等の研究・実習 1499-1 他（79,910,22㎡）				平成24年4月		
		富士農場 （静岡県富士宮市麓422）	畜産実習を中心とした実習教育 （323,260.00㎡）				昭和17年		
		植物園 （神奈川県厚木市船子1737）	有用植物の収集・保存・展示				昭和22年		
		バイオセラピーセンター （神奈川県厚木市船子1737）	人と動植物のかかわりを追求する教育・研究				平成19年4月		
		電子顕微鏡室 （神奈川県厚木市船子1737）	ウイルス・微生物等の微細構造解析				平成10年4月		
		動物衛生管理室 （神奈川県厚木市船子1737）	飼養動物の衛生管理およびワクチン・消毒指導の情報提供						

附属施設の概要	3 応用生物科学部の附属施設		
	応用生物科学研究所 (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	学科共通分野の総合的な研究機関	平成10年4月
	食品加工技術センター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	食品加工に関する実践的教育・研究	平成10年4月
	アイソトープセンター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	動植物・微生物のトレーサー実験等	平成10年4月
	菌株保存室 (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	研究・応用利用に関する微生物の保存 ・管理	平成10年4月
	高次生命機能解析センター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	遺伝子組換え、栄養、生理、遺伝、 発生など生命科学分野の研究	平成21年4月
	4 地域環境科学部の附属施設		
	地域環境研究所 (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	学部の横断的・総合的な研究	平成10年4月
	奥多摩演習林 (東京都西多摩郡奥多摩町氷川2137 (653, 016.00㎡)	森林のしくみ、育成方法、林業機械の実習等	昭和53年
	生物環境調節室 (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	植物の育成・生理環境に関する研究	平成10年4月
	電子顕微鏡室 (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	ウイルス・微生物等の微細構造解析	平成10年4月
	5 国際食料情報学部の附属施設		
国際食料情報研究所 (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	学部共通の課題の総合的な研究	平成10年4月	
宮古亜熱帯農場 (沖縄県宮古島市城辺字福里72-2) (98, 262.00㎡)	熱帯農業の実習教育・試験研究	昭和63年	
6 生物産業学部の附属施設			
生物資源開発研究所 (北海道網走市八坂196)	地域に根ざした生物産業・資源の研究	平成18年2月	
食品加工技術センター (北海道網走市八坂196)	食品加工に関する実践的教育・研究	平成16年4月	
網走寒冷地農場 (北海道網走市音根内59-8) (432, 174.00㎡)	寒冷地大規模農場の実習教育	昭和57年	
オホーツク臨海研究センター (北海道網走市能取港町1-1-2)	海洋動植物の生態・生育・繁殖に関する研究 (4, 656.60㎡)	平成18年4月	
7 総合研究所 (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	全学的な研究戦略の推進・実践	平成12年4月	
8 エクステンションセンター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	社会に対し多様な生涯学習の提供	平成10年4月	
9 コンピュータセンター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	情報処理に関する教育・研究	平成10年4月	
10 国際協力センター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	海外研究機関との交流ならびに協力 連携	平成18年4月	
11 「食と農」の博物館 (東京都世田谷区上用賀2-4-28)	教育・研究の成果を広く社会に公開	平成16年4月	
12 生物資源ゲノム解析センター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	本学及び学外との共同利用・共同 研究の企画、支援等	平成28年4月	

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

## 教 育 課 程 等 の 概 要

（地域環境科学部 地域創成科学科）

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
総合教育科目	全学共通科目	導入科目	フレッシュマンセミナー	1前	2			○			9	2		2					
			共通演習	1後	1			○			9	2		2					
	情報基礎(一)		1前	2			○									兼2			
	情報基礎(二)		1後	2			○									兼2			
		スポーツ関係科目		スポーツ・レクリエーション(一)	1前		1			○							兼2		
				スポーツ・レクリエーション(二)	1後		1			○							兼2		
		課題別科目		特別講義(一)	1前		2			○							兼1		
				特別講義(二)	1前		2			○		1					兼1		
				特別講義(三)	1前		2			○							兼1		
				特別講義(四)	1前		2			○							兼1		
				国際ナショナル・スタディーズ(一)	1前		2			○							兼12		
				国際ナショナル・スタディーズ(二)	1後		2			○							兼1		
		就職準備科目		キャリアデザイン	2前		1			○		1					集中		
				ビジネスマナー	2後		1			○		1							
インターンシップ				3後		1			○		1								
学部共通科目	リミテッド教育科目		基礎生物	1前			2	○								兼1			
			基礎化学	1前			2	○								兼1			
			基礎物理	1前			2	○								兼1			
			基礎数学	1前			2	○								兼1			
			文章表現	1前			2	○								兼1			
			小計(20科目)	—	7	17	10	—	—	9	2	0	2	0	兼24	—			
外国語科目	全学共通科目	基盤英語科目	英語(一)	1前		2			○							兼4			
			英語(二)	1後		2			○							兼4			
			英語(三)	2前		2			○							兼4			
			英語(四)	2後		2			○							兼4			
	学部共通科目	実用英語科目		英語リーディング	1前		2			○						兼3			
				TOEIC英語初級	3前		2			○						兼3			
				TOEIC英語中級	3後		2			○							兼3		
		初修外国語科目		科学英語	3前		2			○						兼2			
				中国語(一)	1前		2			○						兼3			
				中国語(二)	1後		2			○						兼3			
			ドイツ語(一)	1前		2			○						兼1				
			ドイツ語(二)	1後		2			○						兼1				
			小計(12科目)	—	8	16	0	—	—	0	0	0	0	0	兼14	—			
専門教育科目	学部共通基礎科目	人間関係科目	哲学	1前		2			○							兼1			
			科学の歴史	1後		2			○							兼1			
			文学概論	1後		2			○							兼1			
			技術者倫理	3前		2			○		1								
		社会関係科目		日本国憲法	2後		2			○							兼1		
				地域と文化	2後		2			○							兼1		
				現代社会と経済	3前		2			○							兼1		
			国際関係と社会問題		国際関係と社会問題	3後		2			○						兼1		
					自然関係科目		生物学	1前		2			○		1	1			兼1
							化学	1前		2			○						兼1
		地学	1前				2			○						兼1			
		物理学	1後				2			○						兼1			
					統計学	2前		2			○						兼1		
小計(13科目)	—				0	26	0	—	—	2	1	0	0	0	兼12	—			
学部共通専門科目	専門共通科目		地域環境科学概論	1前		2			○		5					オムニバス			
			地球環境と炭素循環	1後		2			○		2					兼2			
		創生型科目		環境学習と体験活動	2前		2			○						兼3			
				源流文化学	2前		2			○		1					オムニバス・共同(一部) ※実習		
			小計(4科目)	—	2	6	0	—	—	6	0	0	0	0	兼4	—			

科目区分			授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	学科専門科目	専門基礎科目	基礎植物学	1前	2			○				1								
			地域環境論	1前	2			○				1			1				オムニバス	
			実用数物科学	1前	2			○				1								
			里山生態学概論	1後	2			○				2							オムニバス	
			施設材料学	1後	2			○				1								
			農村・都市交流論	1後	2			○				1								
			測量学	2前	2			○				1			1				オムニバス	
			保全生態学	2前	2			○				1				1				
			野生動物と生息環境	2前	2			○				1								
			景観生態学	2前	2			○				2				1				オムニバス
			土と水の科学	2前	2			○				1							兼1	オムニバス
			環境植物学	2前	2			○					1							
			自然再生施工論	2後	2			○				1							兼1	オムニバス
			農域防災論	2後	2			○				1								
			環境教育学	2後	2			○				1								
			合意形成デザイン論	2後	2			○					1							
			野生動物資源の管理	2後	2	2		○				1							兼1	オムニバス
小計(17科目)			—	32	2	0	—			9	2	0	2	0	兼3	—				
		専門コア科目	農域物質循環論	3前	2			○			1									
			地域環境計画学	3前	2			○				1								
			群集生態学	3前	2	2		○			1									
			植栽技術論	3前	2			○			1									
			農域植生学	3前	2			○			1									
			樹木医学概論	3前	2			○			1						兼1	オムニバス		
			農業基盤工学	3前	2			○			1									
			地域環境政策学	3前	2			○			1									
			農域空間情報論	3後	2			○						1						
			環境修復論	3後	2	2		○				1						兼1		
			作物栽培管理学	3後	2			○									兼1			
			土壌肥科学	3後	2			○									兼1			
			農地保全学	3後	2			○			1									
			河川水文学	3後	2			○			1									
			文化産業・観光計画学	3後	2			○							1					
			地域創成関連法規	4後	2			○			3	1			1			オムニバス		
			農と伝統文化	4前	2			○									兼1			
			農と健康	4前	2			○									兼1			
小計(18科目)			—	8	28	0	—			8	2	0	2	0	兼5	—				
		学際領域科目	地理情報システム論	2後	2			○							1					
			環境アセスメント論	3前	2			○							1					
小計(2科目)			—	4	0	0	—			0	0	0	2	0	兼0	—				
		総合化科目	地域交流実習	1前	2					○	9	2			2			集中・共同		
			地域創成フィールド実習(一)	1後	2					○	9	2			2			共同		
			地域創成フィールド実習(二)	2前	2					○	6	1			1			共同		
			測量実習	2前	2					○	3	1			1			共同		
			地域創成総合実習(一)	2後	2					○	9	2			2			集中・共同		
			地域創成総合実習(二)	2後	2					○	9	2			2			共同		
			農山漁村インターンシップ	3前	2	2				○	9	2			2			集中・共同		
			専攻実験・実習(一)	3後	2					○	9	2			2			共同		
			専攻実験・実習(二)	4前	2					○	9	2			2			共同		
			卒業論文	4通	4					○	9	2			2					
小計(10科目)			—	20	2	0	—			9	2	0	2	0	兼0	—				
合計(96科目)				—	81	97	10	—			9	2	0	2	0	兼58	—			
学位又は称号		学士(農学)		学位又は学科の分野				農学関係												
卒業要件及び履修方法				授業期間等																
必修科目81単位、選択必修科目12単位(人間関係科目の中から4単位、社会関係科目の中から4単位、自然関係科目の中から4単位)、選択科目31単位以上(ただし、学科専門科目の中から16単位以上)を修得し、合計124単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:44単位(年間))				1学年の学期区分						2学期										
				1学期の授業期間						15週										
				1時限の授業時間						90分										

教育課程等の概要															
(地域環境科学部 森林総合科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	全学共通 導入科目	フレッシュマンセミナー	1前	2			○			13	5		2		兼3
		情報基礎 (一)	1前	2				○							兼3
		情報基礎 (二)	1後	2				○							兼3
	課題別科目	特別講義 (一)	1・2通		2			○							兼1
		特別講義 (二)	1・2通		2			○							兼1
		特別講義 (三)	1・2通		2			○							兼1
		特別講義 (四)	1・2通		2			○							兼1
		インターナショナル・スタディーズ (一)	1前		2			○		1					兼11
	インターナショナル・スタディーズ (二)	1後		2				○						兼1	
	全学共通 英語科目	英語 (一)	1前	2				○		1					兼4
		英語 (二)	1後	2				○		1					兼4
		英語 (三)	2前	2				○							兼5
		英語 (四)	2後	2				○							兼5
		英語リーディング (一)	1前		2			○							兼3
		英語リーディング (二)	1後		2			○							兼2
		TOEIC英語 (一)	3前		2			○							兼2
		TOEIC英語 (二)	3後		2			○							兼2
		英会話 (一)	3前		2			○							兼2
		英会話 (二)	3後		2			○							兼2
		ビジネス英語	4前		2			○							兼1
科学英語		3後		2			○							兼2	
学部共通 関係外国語	中国語 (一)	1前		2			○							兼5	
	中国語 (二)	1後		2			○							兼5	
	ドイツ語 (一)	1前		2			○							兼2	
	ドイツ語 (二)	1後		2			○							兼2	
全学共通 スポーツ 就職準備 科目演習	スポーツ・レクリエーション (一)	1前		1				○						兼2	
	スポーツ・レクリエーション (二)	1後		1				○						兼2	
	キャリアデザイン インターシブ ビジネスマナー	2前 3後 2後		1 1 1			○ ○ ○							兼1 兼1 兼1	
	共通演習	1後	1				○		14	5		2			
学部共通 リメ 教育 ディ アル	基礎生物	1前		2			○							兼1	
	基礎化学	1前		2			○							兼1	
	基礎物理	1前		2			○							兼1	
	基礎数学	1前		2			○							兼1	
	文章表現	1前		2			○							兼1	
小計 (36科目)		—	15	51	0		—		14	5	0	2		兼46	
専門教育科目	通 専 門 共 通	地域環境科学概論	1前	2			○		3					兼11	
		創 生 型 科 目	環境学習と体験活動	2前		2		○			1				兼2
	城 学 科 際 領 域	地球環境と炭素循環	1後		2			○			1				兼3
		源流文化学	2前		2			○		1					兼14
小計 (4科目)		—	2	6	0		—		2	2	0	0	0	兼14	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科基礎科目	人間関係科目	技術者倫理	3前	2			○								兼1
		哲学	1前	2			○								兼1
		科学の歴史	1後	2			○								兼1
		文学	1後	2			○			1					
	社会関係科目	日本国憲法	2後	2			○								兼2
		現代社会と経済	3前	2			○								兼1
		地域と文化	2後	2			○								兼1
		国際関係と社会問題	3後	2			○								兼1
	自然関係科目	生物学	1前	2			○				1				兼2
		化学	1前	2			○								兼1
		物理学	1後	2			○								兼1
		地学	1前	2			○								
		統計学	2前	2			○			1	1				
小計 (13科目)		—	0	26	0	—			2	2	0	0	0	兼10	—
学科専門	専門基礎科目	森林総合科学概論	1前	2			○			12	2				兼1
		森林植物学	1前	2			○			1	1				兼1
		測量学	1後	2			○				1				
		森林生態学	2前	2			○			1	1				
		森林保全学	2前	2			○			1					
		造林学	2後	2			○			1					
		林業工学	2後	2			○			1					
		森林経営学	2後	2			○			1					
		森林政策学	2前	2			○			1					
		林産化学	2後	2			○			1					
		木材工学	2前	2			○			1					
	小計 (11科目)		—	22	0	0	—			12	2	0	0	0	兼1
	専門コア科目	植生学	3前	2			○			1	1				兼1
森林地形地質学		1後	2			○			1					兼1	
森林環境学		2前	2			○				1					
緑化学		3後	2			○			1						
森林立地学		2前	2			○			1					兼1	
森林機械学		3前	2			○								兼1	
樹木生理学		1後	2			○			1						
木材組織学		1前	2			○			1		1				
木材物理学		1後	2			○			1		1				
木材化学		2前	2			○				1				兼1	
木材保存化学		3後	2			○								兼1	
森林文化論		1前	2			○			3			1		兼1	
森林計画学	3前	2			○			1			1		兼1		
森林環境経済学	3後	2			○			2							
外書講読	4前	2			○			2							
実験・調査計画法	4前	2			○								兼1		
野生生物管理学	2前	2			○			1							
樹病学	2後	2			○			1	1				兼1		
治山工学	3後	2			○								兼1		
森林水文学	3前	2			○				1						
森林情報学	1後	2			○						1				
森林情報演習	2後	1				○							兼1		
林木育種学	2後	2			○		○						兼1		
森林アメニティ学	2前	2			○			1							
森林昆虫学	3前	2			○								兼1		
森林土木学	3前	2			○										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	森林土木実習	3後		2				○	2	2					兼1 兼1 兼1 兼1
	造林樹木学	3前		2			○	1	1						
	森林作業システム学	3後		2			○	1							
	きのこ学	2前		2			○	1							
	木質構造学	3前		2			○								
	木材劣化生物学	3前		2			○								
	木質バイオマス利用学	3前		2			○		1						
	木質材料学	3後		2			○								
	建築設計製図法	3後		2			○								
	測樹学	2後		2			○								
	山村コミュニティー論	3前		2			○		1						
	森林教育学	2前		2			○			1					
	小計 ( 38科目)	—	0	75	0		—		12	5	0	2	0	兼12	
専門 実用 科目	木材加工 (製図及び実習を含む)	2前		2			○							兼1	※実習
	金属加工 (製図及び実習を含む)	2後		2			○							兼1	※実習
	機械 (実習を含む)	3前		2			○							兼1	※実習
	電気 (実習を含む)	2後		2			○							兼1	※実習
	栽培 (実習を含む)	2前		2			○							兼3	※実習
小計 ( 5科目)	—	0	10	0		—		0	0	0	0	0	兼6	—	
総合 化科 目	森林学実験実習 (一)	1前		2				○	7	4		1			
	森林学実験実習 (二)	1後		2				○	2	4					
	森林学実験実習 (三)	2前		2				○	5	2		1			
	森林学実験実習 (四)	2後		2				○	3			2			
	測量実習	2前		2				○	1	1					
	演習林実習 (一)	1前		1				○	5	2					
	演習林実習 (二)	2後		2				○	2	1		2			
	専攻実験・実習 (一)	3前		2				○	12	5		2			
	専攻実験・実習 (二)	3後		2				○	12	5		2			
	卒業論文	4通		4				○	13	5		2			
小計 ( 10科目)	—	21	0	0		—		13	5	0	2	0		—	
合計 ( 117科目)		—	60	168	0		—	14	5	0	2	0	兼88	—	
学位又は称号		学士 (地域環境科学)		学位又は学科の分野			農学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
必修科目60単位、総合教育科目の人間関係科目から4単位、社会関係科目から4単位、自然関係科目から4単位を修得し、その他の選択科目から52単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：49単位 (年間))							1学年の学期区分		2学期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要																	
(地域環境科学部 生産環境工学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
全学共通	導入科目	フレッシュマンセミナー	1前	2			○			4	1						
		情報基礎(一)	1前	2				○		3	2			1			
		情報基礎(二)	1後	2				○		3	2			1	兼1 兼1		
全学共通	課題別科目	特別講義(一)	1・2通	2			○								兼1		
		特別講義(二)	1・2通	2			○								兼1		
		特別講義(三)	1・2通	2			○								兼1		
		特別講義(四)	1・2通	2			○								兼1		
			インターナショナル・スタディーズ(一)	1前	2			○		2	2				兼8 オムニバス		
			インターナショナル・スタディーズ(二)	1後	2				○						兼1		
	英語科目	英語科目	英語(一)	1前	2				○							兼5	
			英語(二)	1後	2				○							兼5	
			英語(三)	2前	2					○						兼5	
			英語(四)	2後	2					○						兼5	
英語リーディング(一)			1前		2				○						兼3		
英語リーディング(二)			1後		2				○						兼2		
TOEIC英語(一)			3前		2				○						兼3		
TOEIC英語(二)			3後		2				○						兼2		
英会話(一)			3前		2				○						兼2		
英会話(二)			3後		2				○						兼2		
		ビジネス英語	4前		2			○						兼1			
		科学英語	3後		2			○						兼2			
学部共通	初級外国語関係科目	中国語(一)	1前		2			○							兼5		
		中国語(二)	1後		2			○							兼5		
		ドイツ語(一)	1前		2			○							兼2		
		ドイツ語(二)	1後		2			○							兼2		
全学共通	スポーツ関係科目	スポーツ・レクリエーション(一)	1前		1										兼2		
		スポーツ・レクリエーション(二)	1後		1										兼2		
	就職準備科目	キャリアデザイン	2前		1				○						兼1		
		インターンシップ	3後		1				○						兼1		
	ビジネスマナー	2後		1				○						兼1			
	科目演習	共通演習	1後	1				○		11	8		1				
学部共通	ルメ教育メディア	基礎生物	1前		2			○							兼1		
		基礎化学	1前		2			○							兼1		
		基礎物理	1前		2			○							兼1		
		基礎数学	1前		2			○							兼1		
		文章表現	1前		2			○							兼1		
		小計(36科目)	—	15	51	0		—		11	8	0	1	0	兼42		
専門教育科目	学部専門	通専科目共	地域環境科学概論	1前		2			○						兼12	オムニバス	
		創生型科目	環境学習と体験活動	2前		2			○						兼2	オムニバス	
		域学科際科目	地球環境と炭素循環	1後		2				○		1	1			兼2	オムニバス
			源流文化学	2前		2				○						兼1	
				小計(4科目)	—	2	6	0		—		2	1	0	0	0	兼16

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学科基礎科目	人間関係科目	技術者倫理	3後		2		○			1							
		哲学	1前		2		○										兼1
		科学の歴史	1後		2		○										兼1
		文学	1後		2		○										兼1
	社会関係科目	日本国憲法	2後		2		○										兼2
		現代社会と経済	3前		2		○										兼1
		地域と文化	2後		2		○										兼1
		国際関係と社会問題	3後		2		○										兼1
	自然関係科目	生物学	1前		2		○										兼1
		化学	1前		2		○										兼2
		物理学	1後		2		○										兼1
		地学	1前		2		○										兼2
		統計学	2前		2		○			1	1						
小計（13科目）		—	0	26	0	—	—	—	2	1	0	0	0	0	兼11	—	
学科専門	専門基礎科目	生産環境工学概論	1前	2			○			10	6						兼1
		数学	1前	2			○			1	1						
		数学演習	1前	2				○		1	1						
		基礎力学	1後	2			○			1	2						
		基礎力学演習	1後	2				○			2						
		材料力学	1後	2			○			1	1						
		熱力学	1後	2			○			1	1						
		応用数学	1後	2			○			1	1						
		応用数学演習	1後	2				○		1	1						
		土と水の環境	1後	2	2		○			2	2						
		測量学	2前	2			○			1							
		測量実習	2前	2					○	3	3						兼1
		応用測量学	2後	2			○			1							
		生産環境工学基礎演習	2前	1				○		10	7		1				兼1
		基礎実験	2後	2					○	10	7		1				兼1
		作物栽培学	2後	2			○										兼5
小計（16科目）		—	27	4	0	—	—	—	11	8	0	1	0	兼7	—		
学科専門	専門コア科目	地域資源利用工学	2前		2		○			1							兼1
		地形地質学	2前		2		○										
		地域環境保全学	2後		2		○			1							
		農村計画学	3前		2		○				1						
		農地環境工学	3後		2		○				2						
		農村環境工学	3後		2		○				1						
		土地改良学	3後		2		○			1							
		国土防災工学	3後		2		○			3							
		海外農業開発工学	4前		2		○			2							
		資源管理制度論	4前		2		○										
		環境気象学	1後	2			○				1						
		環境土壌物理学	2前	2			○				1						
		土質力学	2後	2			○			1							
		土質力学演習	2後	2				○		1							
		情報処理工学	2後		2		○			1			1				
		環境物理学	3前		2		○			1							
		流域水文学	3前		2		○			1							
		広域環境情報学	3前		2		○			1							
		地水環境工学	3後		2		○			1							
		環境リモートセンシング工学	3後		2		○			1							
構造力学	2前	2			○				1								
構造力学演習	2前	2				○			1								
土木材料学	2前		2		○			1									



教育課程等の概要																
(地域環境科学部 造園科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合教育科目	全学共通 導入科目	フレッシュマンセミナー	1前	2			○			10	6		3		兼3	
		情報基礎 (一)	1前	2				○							兼3	
		情報基礎 (二)	1後	2					○						兼3	
	全学共通 課題別科目	特別講義 (一)	1・2通		2			○							兼1	
		特別講義 (二)	1・2通		2			○							兼1	
		特別講義 (三)	1・2通		2			○							兼1	
		特別講義 (四)	1・2通		2			○							兼1	
		インターナショナル・スタディーズ (一)	1前		2			○							兼12	
		インターナショナル・スタディーズ (二)	1後		2									○	兼1	
		全学共通 英語科目	英語 (一)	1前	2					○						兼5
			英語 (二)	1後	2					○						兼5
			英語 (三)	2前	2					○						兼5
			英語 (四)	2後	2					○						兼5
	英語リーディング (一)		1前		2				○						兼3	
	英語リーディング (二)		1後		2				○						兼2	
	TOEIC英語 (一)		3前		2				○						兼3	
	TOEIC英語 (二)		3後		2				○						兼2	
	英会話 (一)		3前		2				○						兼2	
	英会話 (二)		3後		2				○						兼2	
	学部共通 関係外国語	中国語 (一)	1前		2				○						兼5	
中国語 (二)		1後		2				○						兼5		
ドイツ語 (一)		1前		2				○						兼2		
ドイツ語 (二)		1後		2				○						兼2		
全学共通 関係科目	スポーツ・レクリエーション (一)	1前		1					○	1				兼1		
	スポーツ・レクリエーション (二)	1後		1					○	1				兼1		
	キャリアデザイン	2前		1				○		1						
	インターンシップ	3後		1				○		1						
全学共通 就職科目	ビジネスナー	2後		1				○		1						
	共通演習	1後	1					○		10	6		3			
	学部共通 ルリメデ 育科イ ア	基礎生物	1前		2				○						兼1	
基礎化学		1前		2				○						兼1		
基礎物理		1前		2				○						兼1		
基礎数学		1前		2				○						兼1		
文章表現		1前		2				○						兼1		
		小計 (36科目)	—	15	51	0	—			10	6	0	3	0	兼44	—
専門教育科目	通専 科目共	地域環境科学概論	1前	2				○		1					兼11	オムニハス
		創生型 科目	環境学習と体験活動	2前		2			○				1		兼2	オムニハス
	城学 際科 目領	地球環境と炭素循環	1後		2				○	1					兼3	オムニハス
		源流文化学	2前		2				○						兼1	
			小計 (4科目)	—	2	6	0	—			2	0	0	1	0	兼14

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学科基礎科目	人間関係科目	技術者倫理	3後		2		○			3						オムニバス	
		哲学	1前		2		○									兼1	
		科学の歴史	1後		2		○									兼1	
		文学	1後		2		○									兼1	
	社会関係科目	日本国憲法	2後		2		○									兼2	
		現代社会と経済	3前		2		○									兼1	
		地域と文化	2後		2		○									兼1	
		国際関係と社会問題	3後		2		○									兼1	
	自然関係科目	生物学	1前		2		○				1						
		化学	1前		2		○									兼2	
		物理学	1後		2		○									兼1	
		地学	1前		2		○									兼1	
		統計学	2前		2		○									兼2	
小計（13科目）		—	0	26	0	—	—	—	3	1	0	0	0	0	兼12	—	
学科専門	専門基礎科目	造園科学概論	1前	2			○			2							
		造園体験演習	1前	2				○		5	6		2			兼6	
		環境デザイン基礎演習	1後	2				○			2		1				
		花・緑演習	1後	2				○		5	2		1				
		測量実習	2前	2					○		2						
		CAD及びGIS基礎演習	2前		2				○	1	1					兼1	
		緑の経済論	2前		2			○								兼1	
		ランドスケープ作品論	2前		2			○		1							
	小計（8科目）		—	10	6	0	—	—	—	8	6	0	2	0	0	兼8	—
	専門コア科目	近代造園史	2後	2				○			1	1					
造園計画学		2後	2				○				1						
都市緑地計画学		3前	2				○										
風景地計画学		3前	2				○		1								
日本庭園論		3後	2				○		1								
景観論		1後		2			○			1							
ランドスケープデザイン論		2後		2			○		1								
自然保護論		3後		2			○					1					
観光計画論		3後		2			○								兼1		
公園マネジメント論		3後		2			○		1								
都市および農村計画		3後		2			○			1							
ランドスケープ政策論		3後		2			○			1							
植物の生活と活用		1後	2				○		1								
造園樹木学		1後	2				○		1								
グラウンドカバープランツ		2前	2				○		1			1					
緑地生態学		2後	2				○		2								
造園植栽学		2後	2				○			1		1			兼1		
芝生論		3前		2			○		1								
樹木の保護と管理		3後		2			○		1						兼1		
緑地の生きもの	3後		2			○								兼1			
植栽基盤論	3後		2			○			1								
造園工学	3前	2				○		1									
造園工学基礎演習	2前	2					○	1	2								
造園施設材料	2後	2							2								
造園施工論	3後	2						1	1								
測量学	2前	2							1								
造園施設設計	3後		2					1									
小計（27科目）		—	30	24	0	—	—	—	9	5	0	2	0	0	兼4	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合化科目	造園工学演習	3前	4				○		4	3					兼2
	造園植栽演習	2後	4				○		5	1			2		兼3
	造園総合演習	3後	4				○		2	1					
	専門特化演習 (一) (植物学)	4前		4			○		2				1		
	専門特化演習 (一) (都市緑化)	4前		4			○		1	1			1		
	専門特化演習 (一) (自然再生)	4前		4			○		1				2		兼1
	専門特化演習 (一) (環境デザイン)	4前		4			○			1					兼2
	専門特化演習 (二) (植栽基盤)	4後		4			○		1	1					
	専門特化演習 (二) (建築デザイン)	4後		4			○		1	1					兼1
	専門特化演習 (二) (エンジニア)	4後		4			○			1					兼1
	専門特化演習 (二) (伝統技法)	4後		4			○		1						兼2
	造園総合論	4後	2				○		1						
	卒業論文 (卒業制作)	4通	4						10	6			2		
小計 (13科目)		—	18	32	0		—	10	6	0	3	0		兼12	—
合計 (101科目)		—	75	145	0		—	10	6	0	3	0		兼93	—
学位又は称号		学士 (地域環境科学)		学位又は学科の分野			農学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
必修科目75単位、総合教育科目の人間関係科目から4単位、社会関係科目から4単位、自然関係科目から4単位、専門特化演習 (一) (二) から各4単位を修得し、その他の選択科目から29単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限: 49単位 (年間))							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要				
(地域環境科学部 地域創成科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育 科目	全学共通 科目	導入科目	フレッシュマンセミナー 建学の精神、教育理念、教育目的・目標及び教育課程の体系を理解すること、並びに教員とのコミュニケーションを通じて個々の学習目的を自覚し、学習意欲を高める動機付けとすることを目的とした科目である。大学で学ぶために必要な情報の収集・整理方法やプレゼンテーションの技法の基礎を習得する。また、大学生活や学習習慣の基本的事項(情報倫理、自己管理・時間管理能力、受講態度、礼儀・マナー、精神ケア)を理解する。 さらに社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観、職業意識を涵養し、学士課程修了後のキャリアプランを実現させるための就職活動の進め方や進学の準備方法などを理解する。	
		共通演習	高等学校の受動的な学習態度から、能動的で自律的・主体的な学習方法を習得することを目的とした科目である。大学で学ぶための必要な技法として、情報の収集・整理(文献・情報検索、フィールドワーク・調査・実験)の方法、読解・文献講読の方法、問題発見・解決に必要な思考力、レポート・論文などの文章作法、プレゼンテーションなどの口頭発表の方法を、少人数による演習で習得する。また、グループ発表やディスカッションなどのグループ学習により、社会人の基礎的能力であるコミュニケーション能力を向上させる。	
		情報基礎(一)	当科目は、情報通信技術を活用した情報処理に必要な基礎的知識及び技能の修得を目標とする。講義科目であるが、パソコンを用いた授業形態とすることで、学生の理解を深めさせる。インターネットより正確かつ妥当な情報を収集する検索技法及び情報リテラシ、情報の発信・共有・二次利用及びコミュニケーションにおける情報倫理、データの加工・分析ならびに文書の出版及び口頭発表にソフトウェアを利用する技法、情報機器とコンピュータネットワークの仕組みを知り適正に手段や機器を選択するための知識を学ぶ内容とする。	
		情報基礎(二)	当科目は、情報基礎(一)で修得した情報通信技術を活用した情報処理に求められる知識の深化及び技能の発展を目標とする。講義科目であるが、パソコンを用いた授業形態とすることで、学生の理解を深めさせる。インターネットを通じた情報発信の標準であるHTML、データベースの基礎知識、スプレッドシートによるデータ処理の応用、画像やグラフィックス等の媒体による情報の表現・編集技法、様々な事例におけるソフトウェアの応用を学ぶ内容とする。	
		スポーツ 関係科目	スポーツ・レクリエーション(一)	スポーツは、人類が生み出した貴重な文化であり、性別や年齢、障害の有無を超えて人々が体を動かすことの喜びや楽しさを分かち合い、感動を共有し、絆を深めることができる。さらには、生きる力を育むとともに、他者への思いやりや協同する精神、公正さや規律を尊ぶ人格を形成する。レクリエーションは、文字通り、re(再び)-creation(新しいことを創造すること)であり、仕事や勉強などの重要な事項をより促進・強化するために必要な活動であることを意味している。心身の健康の維持や体力の維持・向上にも必要であることは言及するまでもない。 この授業では、さまざまなスポーツ・レクリエーションの種目を通じて、これらを体得することを目標とする。前期は、ニュー・スポーツを含む多様な種目を学習する。
		スポーツ・レクリエーション(二)	スポーツは、人類が生み出した貴重な文化であり、性別や年齢、障害の有無を超えて人々が体を動かすことの喜びや楽しさを分かち合い、感動を共有し、絆を深めることができる。さらには、生きる力を育むとともに、他者への思いやりや協同する精神、公正さや規律を尊ぶ人格を形成する。レクリエーションは、文字通り、re(再び)-creation(新しいことを創造すること)であり、仕事や勉強などの重要な事項をより促進・強化するために必要な活動であることを意味している。心身の健康の維持や体力の維持・向上にも必要であることは言及するまでもない。 この授業では、さまざまなスポーツ・レクリエーションの種目を通じて、これらを体得することを目標とする。後期は、主にサッカー(フットサル)、バスケットボール、バレーボールを学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育 科目	全学共通 科目	課題別科 目	特別講義(一)	本講義では国際社会で活躍する人材育成を目的に、海外活動の現場で惹起する問題への実践的な対応力の向上に必要な実践的な技能、知識を教授し、併せて海外体験の奨励を図る。講師には、国際機関、ODA、NGO、NPO、民間企業など様々な分野で活躍する経験者、有職者、本学卒業生等を招き、実践活動および、そこでの苦労・苦心・喜怒哀楽など体験談など最新の情報を提供するものである。なお、本講義では海外活動への参画を希望する学生へ、そのチャンスと試験などアプローチの方法についても紹介する。	
			特別講義(二)	本講義は、バイオテクノロジーが生活環境を多面的に支える現状を基礎から応用まで理解することにより、快適な生活環境作りの基礎知識を得ることを目的とする。 現在、バイオテクノロジーは各種微生物の応用技術、植物育種、環境エネルギー改善の基礎技術として発展しており、私たちの生活基盤を根本から支えている。多様なバイオテクノロジーを構成する各項目について本学の専門教員が基礎知識を平易に解説し、各教員が関与する専門分野にも言及する。 授業は講義形式で行い、対応分野の専門教員が部分的に授業を担当する形式となる。各分野の必要に応じて資料を配布し、パワーポイント、黒板書きと併用して行う。	
			特別講義(三)	本講義は、本学が山梨県小菅村を中心に進めている「多摩川源流大学プロジェクト」の授業で、座学と体験実習からなっている。「座学」では地域づくりを視点に学外の専門家を講師に迎え、自然、環境、文化等様々な源流学の視点から源流域の特徴を講義し、源流域が現在抱えている問題や課題について学ぶ。また、「体験実習」では多摩川の源流に位置する山梨県小菅村の農林家における土づくりや土地管理、野菜づくりを中心とした農業体験、森林の間伐や木工製品の製作を中心とした林業体験、郷土食づくりや伝統工芸について学ぶ文化体験など、様々な源流体験を実施する。なお、年度によっては自分たちで栽培育成した農産物を販売することや販路のリリースも予定する。所属学科では体験できない実習に参加するとともに、農林業機械の安全講習やチェーンソー等の資格取得実習も行う。	講義：24時間 実習：24時間
			特別講義(四)	本講義は、バイオテクノロジーが食生活を多面的に支える現状を基礎から応用まで理解することにより、健康な食生活への基礎知識を得ることを目的とする。 現在、バイオテクノロジーは、快適な食生活維持の基礎技術となっている。本講義では基礎技術の中心となっている食品分析、食料改良技術、生体内反応解析、安全性解析の各事項について本学の専門教員が基礎を平易に解説し、各教員が関与する専門分野にも言及する。 授業は講義形式で行う。対応分野の専門教員が、部分的に授業を担当する形式となる。各分野の必要に応じて資料を配布し、パワーポイントと黒板書きを併用する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育 科目	全学共通 科目	課題別科 目	インターナショナル・スタディーズ(一)	<p>(概要)</p> <p>自分と外国人、自国と外国の存在を歴史的及び社会的に認識し、世界の食農環境問題に対する理解を深化させ、さらに自身の所属学科の専門領域を活用することにより、世界人として活躍できる人材としての知識・技能・態度の習得を目的とした科目である。</p> <p>本学で実施している多種多様な国際協力活動の事例や、海外協定校のある国を中心に各国(及び地域)の食農環境に関する問題点と可能性を理解し、比較や類別により、各国との協調のあり方を探求する。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)(単位認定者:23 志和地 弘信) (15 稲泉 博己/1回) 本学における国際教育活動の事例として、海外協定校との合同開催による「世界学生サミット」及び本学の「国際教育プログラム(CIEP)」の実施内容を理解することにより、国際交流の重要性について具体的に述べるができるようになる。 (20 坂田 洋一/1回) 海外協定校との学生交流プログラム参加者による経験談から、異文化理解の重要性を理解し、さらに異文化コミュニケーションの方法論について習得し、実践できるようになる。 (21 佐藤 孝吉/1回) 各国の人々・社会・政治経済・文化に関する知識及び食農環境に関する知識を習得する。また、海外協定校における現地の食農環境に対する取組みを理解する。テーマ「南米の食農環境と海外協定校について」 (22 島田 沢彦/1回) 世界の環境問題に関する知識と現地フィールドワークを行うために必要な技能を習得する。 (23 志和地 弘信/4回) 世界の国々、世界の人々と国々及び多様な文化と農業について、NPOについて、海外青年協力隊について、本学における国際交流について、在学中に参加可能なIS(インターナショナルスタディーズ)プログラムについて、理解する。また、今後の国際関係について予測し、国際人として必要とされる「心構え(=各国との協調のあり方)」について推論する。 (25 太治 輝昭/1回) 研究者の海外(ドイツ)留学事例を理解することにより、進路として研究職を選択した場合の自分を想像することができるようになる。 (27 三原 真智人/1回) 各国の人々・社会・政治経済・文化に関する知識及び食農環境に関する知識を習得する。また、海外協定校における現地の食農環境に対する取組みを理解する。テーマ「タイ及びカンボジアの食農環境と海外協定校について」 (30 五條 満義/1回) 各国の人々・社会・政治経済・文化に関する知識及び食農環境に関する知識を習得する。また、海外協定校における現地の食農環境に対する取組みを理解する。テーマ「中国及びモンゴルの食農環境と海外協定校について」 (31 鈴木 伸治/1回) 各国の人々・社会・政治経済・文化に関する知識及び食農環境に関する知識を習得する。また、海外協定校における現地の食農環境に対する取組みを理解する。テーマ「イギリスの食農環境と農学研究について」 (33 宮浦 理恵/1回) 各国の人々・社会・政治経済・文化に関する知識及び食農環境に関する知識を習得する。また、海外協定校における現地の食農環境に対する取組みを理解する。テーマ「インドネシア及びマレーシアの食農環境と海外協定校について」 (34 村松 良樹/1回) 各国の人々・社会・政治経済・文化に関する知識及び食農環境に関する知識を習得する。また、海外協定校における現地の食農環境に対する取組みを理解する。テーマ「アメリカの食農環境と海外協定校について」 (62 夏秋 啓子/1回) 海外における健康管理や危機管理の方法について、具体的な事例を知ることにより、自ら実行できるようになる。</p>	オムニバス方式
			インターナショナル・スタディーズ(二)	<p>本学が実施する短期海外派遣プログラムに参加し、本学姉妹校を実際に訪問して当該国の食農環境問題の理解を深化させるとともに国際人としての素養を磨く。夏休み中の2週間(カナダのみ3週間)あるいは春休み中の4週間のプログラムとして集中実施する。</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育 科目	全学共通 科目	就職準備 科目	キャリアデザイン	この科目は、① 実践的自己探求講座を中心に、“自分作り”から積極的な就職活動への足がかりをつくる。② 自分がまわりにどう見られているか、まわりの目からの自分を考える。③ 自己理解が深まり、自己概念を確立し、自信を持ち、主体的・積極的な行動のできる自分を形成する。④ 自分作りから“自分を磨く”ことへ、ビジネスマナー講座と同時受講することで、社会や人とのかかわり方、コミュニケーション術に一層のレベルアップをはかり、社会人としての人格形成へと導く。 以上、就職準備のためのスタンスとスキルを学び、大学生活での実践・訓練から就職活動への取り組みを促進する。	集中
			ビジネスマナー	この科目は、① 自分作りから“自分を磨く”ことへ、ビジネスマナーから社会や人とのかかわり方、コミュニケーション術を学び、社会人としての人格形成へと導く。② 挨拶、立ち居振る舞い、言葉の使い方から、他人に自分の見せ方(魅せ方)を学ぶ。③ 女子学生へのメイク講座は、個別指導を中心に、より実践的に実施する。 以上、就職準備のためのスタンスとスキルを学び、大学生活での実践・訓練から就職活動への取り組みを促進する。	
			インターンシップ	本学の建学の精神は「人物を畑に還す」である。本学は、社会で活躍する優秀な人材を育成し社会に送り出すことを教育目標にしている。インターンシップは、学生の将来のキャリア・プランに関連して、大学在学中に一定期間を企業などで就業体験することによって、仕事の本質を理解し、更なるキャリア・プランの構築を図る制度である。このインターンシップは、学生が所属する学科や専攻に関わりなく、あらゆる職業に対して、窓口を開いている。個人の職業選択の自由は憲法で保障されており、キャリア・プランは学生自身がその意思で作り出していくものである。従って、学生自身が実際の職場において就業体験を積むことにより、自分の適性を認識し、職業観を深め、職業選択に役立てることを目標とする。	
学部共通 専門科目	リメディアル教育 科目	基礎生物	地域環境科学を学ぶにあたって、高校までに学んだ生物や生態に関わる基礎知識は最低限の基盤となるものである。本科目では高校生物の単元の中でも特に今後の学習に必要となるものに絞り込んで理解を深め、今後の学習の実効性を高めることを目標とする。		
		基礎化学	森林等の一次、二次的自然の保護や育成、生産について考えるときに高校までに学んだ化学の基礎が身に付いていることが非常に重要となる。本科目では、高校化学において、苦手意識を持ちやすい単元や未履修となりがちな単元について復習することにより、専門教育科目などの理解の助けとする。特に、物質量molの計算や考え方のように不慣れな単位や定数の扱いについては、第3講で簡単に学び、第12講・第13講で掘り下げた二段階学習により完全に理解できるように講義を行う。		
		基礎物理	環境にやさしい農業生産技術を発展させるには、工学的な視野からのアプローチも重要となる。また、工学を理解するためには高校までに学んだ物理の各単元の知識を発展させて、統一的な視点を持つ必要がある。本科目ではその準備として、高校物理の中でも、特に必要となる力学・電気分野の知識の再構築を行う。特に、「運動をグラフに表す」ことを徹底して訓練する。加えて、力学においては「位置エネルギー」の考え方を理解することが、全体を理解する上でのポイントとなるので、丁寧に扱う。電気分野については日常的に目にしやすい現象を対象に特に基礎から解説を行う。		
		基礎数学	数学を学ぶことによって培われる数的感覚や論理的思考能力は工学系専門教育科目はもちろん、あらゆる学問の下地となるものである。初歩的な数式の扱い方から関数の基礎までを題材に数学の基礎・基本を学び直すと共に、こうした力を養うための訓練を行う。また、指数・対数関数における負の数や乗数の扱い、加法定理における変数の扱いに加えて、有効数字・N進法などの大切な項目についても重点的に説明する。		
		文章表現	大学で学ぶためには、「聞く」「読む」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つの力がバランスよく伸びていくことが必要である。本講では、それらの力が、段階的に身に付けられるように講義を進める。特に「読む」ことは一番の基本であることから「音読」によるトレーニングに重点を置いて授業を行う。半期の授業で、アカデミックレポートが作成できることを目標とする。		

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	全学共通科目	基盤英語科目	英語(一)	この科目では、〈聞く〉、〈話す〉、〈読む〉、〈書く〉という英語の4つのスキルの中で、〈聞く〉力をつける事を主な目的として、講義、演習を行なう。学生に生の英語を聞かせる事に重点をおくが、それに対する学生のリアクションを測定し、その能力を向上させるため、単語テストなどで語彙の強化、確認を図りながら、ディクテーションなどの教材を用いて、能力の向上をめざす。1年生必修の科目であるので、教科書の内容はなるべく広範なものとするが、主に比較文化的な内容を中心とする。なお、クラスは習熟度別とする。	
			英語(二)	この科目では、〈聞く〉、〈話す〉、〈読む〉、〈書く〉という英語の4つのスキルの中で、〈話す〉力をつける事を主な目的として、講義、演習を行なう。グループワークなどの教授法を用いて、学生に一言でも多く英語を発話させるよう指導する。その際、文法力や発音よりは論理性、流暢さに重点をおく。同時に単語テストなどで基礎的語彙の強化も図る。必修科目であるので、教科書の内容はなるべく広範なものとするが、主に比較文化的な内容を中心とする。クラスは習熟度別とし、必要、希望に応じて外国人教員担当のクラスも準備する。	
			英語(三)	この科目では、〈聞く〉、〈話す〉、〈読む〉、〈書く〉という英語の4つのスキルの中で、〈読む〉力をつける事を主な目的として、講義、演習を行なう。教育手法としてはなるべく日本語を用いない直接理解を指導する。この科目の1番のポイントは、辞書の適切な使用法の指導で、電子辞書、冊子体、などの様々な形の辞書を適切に使える事を目標とする。また、単語テストなどで語彙の強化も図る。必修の科目であるので、教科書の内容はなるべく広範なものとするが、主に科学・環境に関する内容を中心とする。なお、クラスは習熟度別とする。	
			英語(四)	この科目では、〈聞く〉、〈話す〉、〈読む〉、〈書く〉という英語の4つのスキルの中で、〈書く〉力をつける事を主な目的として、講義、演習を行なう。ターム中に何度か自由作文の提出を求め、自分が言いたい事を表現できる英語能力の涵養をめざす。基礎クラスは英文パターンに習熟させる事を中心に展開するが、応用クラスでは文法力よりは論理性を中心に指導していく。必修科目であるので、作文テーマは広範な物とするが、主に科学・環境的な内容とする。クラスは習熟度別とし、必要、希望に応じて外国人教員担当のクラスも準備する。	
	学部共通科目	実用英語科目	英語リーディング	本科目では、基盤英語科目の補完的科目での目的の一つである「読む」力、つまり読解能力の向上を目指す。文法上の知識の確認をしながら、文意を正確に読み取る演習をする。また、あわせて科学的な用語を修得することも目指す。	
			TOEIC英語初級	本科目は、練習問題を通じTOEICのような「反応」を求められるテストへの「慣れ」を養成し、同時に基盤英語科目で習得した英語力とともに、TOEIC資格試験のスコアの向上を図ることを目標とする。	
			TOEIC英語中級	本科目では、TOEICの資格試験を教材に使いながら、英語の応用力を身につけることを目的とする。具体的には120分で200問を連続して解くスピードを、過去の試験や試験傾向を踏まえ演習形式で身につける。また、容易なものから難解なものへの段階的なリスニング演習や速読練習も行なう。	
			科学英語	本科目では、ゼミや卒論で専門書や関連論文を英語で読んだり、さらには、専門分野の講演や発表を聴講できるようになるための、科学的な表現を習得することを目的とする。高校の理数系授業の基本的レベルの内容が、専門的な用語を含んだ標準的英語表現ではどのように表現されるか、から始め、科学的英語文献を読解できるようになることを到達目標とする。	
	初修外国語科目		中国語(一)	本科目は初心者向けの入門レベルであり、中国語にとって非常に重要な発音と四声の理解・習得を重点に授業を進める。目・口・耳を使い、基本的な表現を繰り返し練習することによって発音と四声を定着させ、さらに簡単な文型を生かして表現したいことが表現できるようになることを到達目標とする。	
			中国語(二)	中国語(一)にひきつづき、発音・四声の定着と聴解力・会話力の向上を目指す。文法は中国語(一)より高度なものを対象として、簡単な自由会話ができるスキルを身につけることを到達目標とする。	
			ドイツ語(一)	本科目では、日常的な会話文を扱った教科書を使い、ドイツ語で簡単なコミュニケーションをとれるようにすることを目標とする。同時に、基礎的なドイツ語の文法事項を学ぶ。また、ドイツ語の背景にあるドイツ語圏の文化についても適宜紹介する。	
			ドイツ語(二)	ドイツ語(一)で使用した題材を引き続き使用し、ドイツ語の多様なコミュニケーションの場面を想定し、口頭練習を中心に授業を進める。1年間でドイツ語の基礎的な文法事項を習得することを到達目標とする。また、ドイツ語圏の文化についても適宜紹介する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育 科目	学部共通 基礎科目	人間関係 科目	哲学	本科目では、科学のもつ特性とは何なのか、どのように社会に組み込まれ、影響を与えるようになったのか、また、加速度的に進展する科学・技術はどこへ向かおうとしているのかを学び、自然科学の個別の分野を離れ、社会との関係のなかで科学・技術の置かれている現状と課題を考え、将来を展望するための哲学的な素養を身につけることを到達目標とする。	
			科学の歴史	科学技術の進展で人類は快適な生活、健康と長寿、高度情報化などの恩恵を享受し、一方では核兵器や地球環境問題などの負の遺産を抱えている。本科目では、科学の本質を知り、最先端を理解し、将来を考えるのに必要なリアルな素材を提供し、「科学と社会」のあるべき姿を考えられるようになることを到達目標とする。	
			文学概論	本科目においては、「文学」についての入門的、概論的な講義を行なう。最初に文学の概念について、総括的な講義を行い、その後文学の各ジャンルについて、具体例をあげながら論じていく。特に、いわゆる「文学」(小説、詩、戯曲、など)と、広い意味での文学(広告、マンガ、アニメ、など)の両方に目配りをしながら講義を進めることをめざし、最終的には「文学的である」とはどういうことかを個人的に考えられる能力を付けることを到達目標とする。取り扱うテキストは日本文学が中心だが、翻訳ものの海外の作品も取り上げる。	
			技術者倫理	本科目は、人間社会に役立つべく、倫理観をもって技術を応用でき、国際社会に通用する技術者の資質を身につけることを目標とする。技術者としての行動が、人々の安全、福祉および健康に影響を及ぼす可能性があることを理解し、専門職としての責任を身につける。また専門職の責任への障害はどのようなものがあり、どうすれば克服できるか、諸倫理問題に直面したときにとるべき基本的態度について、具体的な事例を用いて考える。	
	社会関係 科目	日本国憲法	本科目では、憲法の個々の条文ではなく憲法本来の意義について、世界史を参照しながら説明し、今後の憲法問題を考える基礎を習得することを目的とする。具体的には、憲法の目的と理念を把握することにより、改憲・護憲の論議は本当に意味のあるものなのか、そもそも憲法は何のためにあるのか、などの問に対して自分なりの答えを出せるようになるとともに、憲法本来の意義について、世界史を参照しながら説明し、今後の憲法問題を考える基礎能力を習得することを到達目標とする。		
		地域と文化	人類が、与えられた環境と資源をどのようにに活用するのか、伝統や歴史的経験によってその基盤は、異なってくる。その基盤に立って自己を存し、主張する態度も、大きく違ってくる。目に見える暮らし方、目に見えない人々の考え方・行動の仕方、それぞれに異なったあり様が示されている。国際化の進展でグローバルな考え方・行動が求められる今日、異文化に接する機会はますます多くなっている。本科目では、地域というカテゴリーを軸に、人々の暮らし方(文化)をどのように理解するか、その基本的な考え方を学習する。つまり、国際化時代における異文化の接し方を学ぶ。		
	社会関係 科目	現代社会と経済	本科目では経済学・社会学の基礎を概観し、近代以降、特に高度経済成長期以降の経済社会の変動が現代社会・経済、特に農山村社会がどのように変遷してきたか、また現代社会・経済の諸矛盾を把握・理解することを目標とする。特に高度経済成長期以降、農山村社会が劇的に変化し、地域社会・地域産業に大きな影響を与えてきたことに重点を置いて議論する。		
		国際関係と社会問題	現代社会は国際化・グローバル化し、人間、物資、資本が国境を越えて交流する時代に入っている。一国で発生した経済問題や社会問題も周辺諸国や遠く離れた人々へも影響を与え、その問題の解決に向けても国際的な人々の協力や国家間の交渉が必要となっている。本科目では、身近に起こっている国際問題の理解と農林水産業分野の国際関係に関する課題を歴史的・理論的に考え、現状分析方法を身につけるための材料となる基礎知識を身につける。		

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育 科目	学部共通 基礎科目	自然関係 科目	生物学	<p>(概要)            本科目は生物がいかんして生まれ、進化し、集団を維持しているのかについて、さらには、我々人間社会とどのように関わっているのかについて、進化学・生態学・遺伝学・環境学的視点から理解することを目的とする。専門分野に進むための基礎的知識を習得するとともに、現在生じている社会的・生態学的問題との関係を理解することを到達目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)(単位認定者:3 亀山 慶晃)            (3 亀山 慶晃／5回)            生物の適応と進化に関する原理と諸過程を概説した上で、植物集団の維持機構や生物多様性について説明する。            (10 浅井 俊光／5回)            生物資源の様々な利用方法を紹介した上で、それらの利用が他の生物や環境に及ぼす影響、社会科学的な環境問題と生物の関係について説明する。            (35 本橋 慶一／5回)            生物の基本単位である細胞に着目し、原核生物と真核生物の相違点、生体膜の構造と役割について概説する。さらに、微生物の特徴と分類を紹介し、生物多様性について説明する。</p>	オムニバス方式
			化学	<p>化学は、物質の構造と性質、およびその変化を対象とした自然科学の一分野であり、自然科学のいろいろな分野での基礎である。また、人間の生活とも深い関わりを持っている。本科目は、化学の基本的内容を習得することをねらいとする。現在社会が直面する様々な環境問題と、化学とのかかわりを考えながら、その背後にある化学の原理を勉強し、その理解を深めることを目標とする。</p>	
			地学	<p>本科目では前半で、宇宙の中での地球の位置付け・地球と宇宙との関わり、具体的には宇宙の構成などの天体に関する知識を、後半で地球の構成を中心に、過去・現在・未来の地球の姿、具体的には地球の歴史、地震、地質や鉱物、気象、気候や海洋の話を、地球の歴史的側面を含め順次、紹介する。</p>	
			物理学	<p>本科目では、物理学の基礎である力学および電磁気学について学ぶこととする。自然科学の中で最も基礎的な学問の一つである物理学の基礎知識を身に付け、日常生活等で経験する現象を定性的、定量的に理解できるようになることを到達目標とする。</p>	
			統計学	<p>本科目では、実験や観測から得られたバラツキを持つデータに対して、応用数学的手法を用いてデータを解釈するための根拠を提供する統計学に関する、基礎的な知識を身につけることを目標とする。前半では、データ整理の方法ならびに統計学を学ぶ上で必要な確率論の諸概念と確率分布を理解し、データが持つ傾向や性質を表現する手法(記述統計学)の習得を目的とする。後半ではデータの一部に基づいて全体が示す性質を推定する手法、ならびにデータに対して立てた仮説の妥当性を定める手法(推測統計学)の習得する。</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育 科目	学部共通 専門科目	専門共通 科目	地域環境科学概論	<p>(概要) 本科目では、「新版地域環境科学概論」のテキストを用い、最初に地域環境科学の全貌を講義した後に都市・農村・山村といった地域性について学び、各地域における環境問題の所在とそれを解決する方法、さらに環境計画の現在と今後の方向性について関心と理解を促すことを目標とする。 学習到達目標は、①環境科学の理解、②地球環境と地域環境、地域概念の理解、③地域環境科学部の領域と内容理解、④地球環境問題と地域の環境問題の理解、⑤地域づくりの方法の理解の5つとする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)(単位認定者:1 竹内 康) (1 竹内 康／3回) 地域づくりの概念と持続可能な地域づくりの枠組み、地域づくりの技術と循環型社会および地域デザインの立場から地域環境科学が寄与し得る役割について講義する。 (5 武生 雅明／3回) 自然環境と植物を中心とした生物多様性の関係性、地域社会と環境問題の関連性とおよび自然再生の立場から地域環境科学が寄与し得る役割について講義する。 (6 竹内 将俊／3回) 地域環境における自然環境と動物を中心とした生物多様性の関係性および野生動物保護の立場から地域環境を守る自然の役割について講義する。 (7 藤川 智紀／3回) 地域資源としての水、バイオマスエネルギー、土壌および自然環境と水環境、エネルギー環境、土壌環境の関連性と今後の課題について講義する。 (9 宮林 茂幸／3回) 地球環境問題を背景とした地域環境科学の体系と領域および地域づくりと環境計画の関連性および地域づくりに果たす地域環境科学の役割について講義する。</p>	オムニバス方式
			地球環境と炭素循環	<p>(概要) 本科目では、地球環境と炭素循環に関するこれまでの国際的な枠組みと具体的な技術・取り組みを説明する。続いて森林、農村、都市といった地域環境を対象に、炭素貯留に有効な緑化技術、森林管理、農業技術や温室効果ガス発生削減に向けた取り組みについて学び、炭素循環の関係する地球環境問題への理解を深めることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)(単位認定者:27 三原 真智人) (3 亀山 慶晃／4回) 地球温暖化の原理を概説した上で、温暖化の影響を予測するための様々なアプローチ、植物の生活史特性に着目した将来予測、海洋における水塊形成と生物活動について説明する。 (7 藤川 智紀／4回) 農地・農村地域の炭素循環について、温室効果ガスである二酸化炭素とメタンの挙動に注目して、農地への有機物の施用や灌漑と言った農作業が環境におよぼす影響や農業における地球温暖化対策についての理解を深める。 (27 三原 真智人／3回) 炭素を含む有機物の農業利用の観点から、有機農業における堆肥化技術による土壌への炭素還元および農地からの土壌および炭素成分の流出と保全対策を紹介する。また、地球規模の炭素循環に関係する国際的な枠組みについて解説する。 (32 橋 隆一／4回) 森林における炭素循環について、森林生態系における炭素循環、世界の森林とその現状、代表的な森林における炭素吸収固定量、さらに温暖化防止にかかわる森林の整備と木質バイオマスの利用について学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育 科目	学部共通 専門科目	創生型科 目	環境学習と体験活動	<p>(概要) さまざまな現場における環境に関する体験活動を通して、ボランティア活動・市民活動の社会的意義や環境に関しての理解を深めるとともに活動を評価し、コーディネートする能力を養うことを目的に開講する。各学生がに自主的に現場での環境に関する取り組みに参加し、観察・評価・報告することが必須である。講義はこれらに関する留意点や視点を養うことを目的に実施する。なお、本科目は共同開催による講義1回、オムニバス方式による講義4回、クラス分け後に実施するレポート作成法指導5回、実地体験活動により構成される。</p> <p>(単位認定者:24 関岡 東生) (24 関岡 東生、27 三原真智人、37 栗田和弥/1回)(共同) 授業到達目標、実施方法、成績評価方法およびクラスに分けて実施する実地体験活動の実施方法・レポート作成方法について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全4回) (24 関岡 東生/2回) 森林(やま)づくりにおける市民参加、体験活動における安全管理について講義する。 (27 三原真智人/1回) 国際的な環境活動の現状と課題について講義する。 (37 栗田和弥/1回) 都市住民による国立公園管理の現状と課題について講義する。</p> <p>(クラス分け方式/全10回) Aクラス(24 関岡東生)、Bクラス(27 三原真智人)、Cクラス(37 栗田和弥)の3クラスに分かれ、担当教員によるレポート作成法指導(5回)、実地体験活動(実習5回分以上)を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義:20時間 実習:24時間
			源流文化学	<p>本科目は、源流域における自然に学び、自然と共に生きるという基本を学び、安全で、健康的な自らの生活を創造する環境学生を養うとともに、源流域の変遷と成り立ちを学び、国民の共通的社会資本である源流を守り、源流域の再生をすすめる理論的基礎を学ぶこととする。座学だけで得られない知識、経験については現地実習によって源流域を訪れ、源流体験によって補完する。</p>	講義:26時間 実習:12時間
	学科専門 科目	専門基礎 科目	基礎植物学	<p>地域の生態系を保全するには、生態系の最も基本的な情報であるフロラリストを作成することが必要である。そこで本科目では、植物の葉や繁殖器官の形態用語、分類群毎の形態的特徴、種概念、命名規約、系統分類体系、系統地理について学び、地域のフロラリスト作成に必要な植物の種同定能力を身につけることを到達目標とする。</p>	
			地域環境論	<p>(概要) 本科目は、地域環境を捉える上で必要な自然環境の基礎的知識を得ることに加えて、歴史的な人間の生活・文化活動の結果として成立してきた複雑な社会環境への理解を得ることを目的とする。具体的には、基礎的な地勢、気候、植生、土壌等の自然環境やそれらと人間活動の結果としての景観、土地利用、およびそれらの維持管理、環境保全の取り組み等について概観するとともに、注目されている今日の話題についても紹介する。本科目の到達目標は、地域環境を捉えるための基礎的知識を蓄えその知見を広げることとする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)(単位認定者:4 鈴木 伸一) (4 鈴木 伸一/8回) 地域環境について、自然地理学を基礎とした環境論を中心に、それらを背景とした地域の土地利用、環境保全および文化論について説明する。 (13 町田 怜子/7回) 地域環境で展開される環境保全活動について、市民、行政、企業、研究者等の様々な立場からの取組を提示しながら講義を行う。そして、「地域環境」を幅広く捉える視点や、地域創成に貢献できる知識と感性を培うことを目標とする。</p>	オムニバス方式
			実用数物科学	<p>地域づくり、ものづくりには測量学や設計法といった工学技術が必要不可欠である。本科目ではそれらの基礎となる数学および力学について実用例を交えながら解説する。高等学校で履修した数学・物理を基本として、関数(多項式、三角関数、指数・対数関数)および微積分の応用例、材料力学および構造力学の初歩的な内容を学び、工学技術の基礎的な知識を得ることを到達目標とする。</p>	
		里山生態学概論	<p>(概要) 里山地域の一次産業と生態系の保全を両立するには、その地域に生育する生物種や生態系の生態的特徴を把握することが不可欠である。また生態学の理論は農林水産業の様々な場面で応用されており、それらの産業に関わるには生態学の理解は欠かせない。本科目では、個体、個体群、群集、生態系、景観の各レベルでの生態学理論の基礎を学び、地域生態系の把握に必要な基礎知識を身につけることを到達目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)(単位認定者:5 武生 雅明) (3 亀山 慶晃/5回) 進化生態学、繁殖生態学における基礎理論に基づき、生物多様性が形成・維持されるメカニズムについて説明する。 (5 武生 雅明/10回) 群集生態学、生態系生態学、景観生態学における基礎理論を説明すると共に、里山における生物多様性の現状と保全策について説明する。</p>	オムニバス方式	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育 科目	学科専門 科目	専門基礎 科目	施設材料学	地域の生活基盤・産業基盤を支える地域基盤施設の役割を把握し、維持管理を行っていくためには、使用されている材料の特性を理解した上で、適切な材料を適所に使用することが重要である。本科目では、地域基盤施設に用いられるコンクリート、アスファルト、地盤材料を取り上げ、その基本的な性質や取扱い方法を学習するとともに、地域基盤整備・管理のための基礎的な知識を得ることを到達目標とする。	
			農村・都市交流論	わが国の地域振興は今までの自治体を主体とした取り組みから、流域間における連携や都市と農山村の交流連携あるいは産・官・学の連携など多様な主体が連携する広域的地域振興へと転換している。本科目では、地域づくりにおける地域連携の必要性・論理性を解説するとともに、戦後における地域振興政策と地域連携と先駆的事例をふまえてその発展過程を解説する。これらをふまえて、六次産業化などによる地域連携の取り組み方について講義する。	
			測量学	(概要) 本科目では地域環境を対象に計画・設計を行う際、必要となる位置・面積・高さなどの基本的な空間情報からリモートセンシング、GISなど高度に発展した地理空間情報技術に至る一連の測量方法について解説する。取得したい空間情報や扱う空間に応じて、各種の測量法からの的確に手法を選び、求める空間情報を取得できる力を身につけることを本科目の到達目標とする。  (オムニバス方式/全15回)(単位認定者:8 本田 尚正) (8 本田 尚正/10回) 測量の基本技術である距離測量、平板測量、水準測量、角測量およびトラス測量に関して、それぞれの測量技術の理論、実際の外業作業および内業計算の手順について解説する。 (12 下嶋 聖/5回) 測量の体系及び農域空間における位置情報取得の意義を概説する。新しい測量分野である地理空間情報技術について、特にGNSS測量、写真測量、リモートセンシング、GISについて解説する。	オムニバス方式
			保全生態学	保全生態学は、農山村等における生物多様性の保全を目的とした学問分野である。本科目では、生物多様性(種の多様性、遺伝的多様性、生態系の多様性)の定義と現状、生物多様性を保全するための理論と戦略、具体的な取り組みについて学ぶ。これにより、生物群集や生態系の機能を保全しつつ、社会を持続的に発展させるための方策について科学的に理解し、考察するための基礎的素養を身につけることを本科目の到達目標とする。	
			野生動物と生息環境	本科目の到達目標は、日本の動物相とその成立過程を理解すること、主要な動物分類群の調査手法や同定能力をつけることである。前半は、日本の動物相の特徴ならびに主要な動物分類群、具体的には哺乳類、鳥類、両生爬虫類、魚類(淡水)、昆虫類、その他無脊椎動物の種数、生物的特徴、絶滅のおそれのある種の該当状況等を概説する。また、本科目が野外実習の事前学習としても位置づけられていることから、各分類群の調査手法と関東、東北、甲信越等実習地域にて遭遇しやすい動物種・群の同定技術を身につける。後半は動物の生息環境について学習し、いくつかの分類群についてその生息地の再生の考え方・取り組みを学ぶ。	
			景観生態学	(概要) 地域の営みは、可視的には現在から過去に至る人間活動と自然環境との結果としての景観に集約される。地域環境を全体的に把握してゆくためには、景観生態学的な捉え方が不可欠である。本科目は、植生を中心とした景観を植生生態学・植生地理学的に考察するとともに、景観の構造や空間的広がりを地理情報システムによって概観し地域における景観把握の意義を学ぶことを目的とする。自然環境要素及び社会環境要素の両面から景観(地域)の構造を総合的に理解できる力をつけることを本科目の到達目標とする。  (オムニバス方式/全15回)(単位認定者:4 鈴木 伸一) (3 亀山 慶晃/3回) 個体群生態学的な視点に基づき、指数曲線やロジスティック曲線から、空間を取り入れた「島の生態学」、それを拡張した「メタ個体群モデル」について説明する。3回中1回は鈴木伸一との共同開講 (4 鈴木 伸一/8回) 植生生態学的視点に基づき、農域環境に展開されている景観の成り立ちについて、自然環境と土地利用および植生との関係における景観の類型とその空間的広がり、構造を中心に解説する。8回中1回は亀山慶晃との共同開講 (12 下嶋 聖/5回) 景観生態学的視点より農域空間における時空間スケールの階層性と社会環境要素の積層性について概説する。具体的な事例を交え自然事象及び社会事象と地理空間技術との関連性について解説する。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育 科目	学科専門 科目	専門基礎 科目	土と水の科学	<p>(概要) 水資源や土壌をできるだけ有効に利用するには、水の化学的性質、水路における水の移動や土の中の物質・エネルギーに関する知識を修得する必要がある。本科目では、水の基本的な性質、水の移動に関する水理学、土の中の物質の移動に関する土壌物理学を学ぶことを目的とし、地域の水、土壌資源利用計画を策定するための基礎的な知識を得ることを到達目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)(単位認定者:7 藤川 智紀) (7 藤川 智紀／9回) 農地、農村の設計や管理に必要となる水および土壌の基本的な性質について、特に水と土の移動を解析するために必要な水理学と土壌物理学を中心に解説する。 (61 中村 好男／6回) 農業用水や農地の多面的機能に注目して、現在の農村地域で進められている水資源や農地の持続的な利用方法について紹介する。</p>	オムニバス方式
			環境植物学	<p>緑地や植物の保護、保全、維持管理を行っていくうえで、気象や土壌など様々な環境要因条件に対する植物の生理的応答を理解しておくことが必要不可欠である。本科目では、植物が有する耐寒性、耐暑性、耐乾性、耐塩性、耐陰性などの解説を中心に、適応能力の高い植物種やそのメカニズム、自生地や分布域、植栽時の留意点などについて学習し、自然修復技術の基礎として環境と植物の関係について理解を深めることを到達目標とする。</p>	
			自然再生施工論	<p>(概要) 複数のプレートの境界に当たるわが国では、急峻な地形と、地震や台風などの豪雨により頻繁に地すべりが発生してきた。また開発行為により人為的に大規模な裸地が形成されてきた。そのため独自の植生回復技術が発展している。本科目では自然回復緑化の基本理念と技術の変遷、自然回復を計画・実行する上で必要な点を解説し、近年、特に重視されている生物多様性に配慮した植生回復(自然再生)を実践するためのスキルの習得を目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)(単位認定者:2 内田 均) (2 内田 均／9回) 植栽技術の視点に基づき、自然再生技術に不可欠な植物の植栽導入技術および植生導入後の植生調査法について論じる。 (32 橋 隆一／6回) 緑化学の視点に基づき、自然再生技術について、国内外の自然再生事例を活用しながら、その計画、施工、管理を論じる。</p>	オムニバス方式
			農域防災論	<p>本科目では、源流域から中山間地域を経て平野部に至る農域を対象として、自然災害の発生メカニズムとそれらが農村の生産活動や生活全体に及ぼす影響について、水・土砂災害、地震災害、火山災害といった実際の災害事象を事例として解説する。農域における災害発生場の自然的・社会的特性を理解し、ハード・ソフト両面による農域防災計画を策定するために必要な基礎的な知識を得ることを到達目標とする。</p>	
			環境教育学	<p>わが国の農山村は自然と共存する優れた文化を形成してきている。それは、地域住民の暮らしと生業の中で培い、発展してきた「知識」と「知恵」であり、自然と共存するための「技」でもあり、多様な「生きる力」を有している。本科目は、環境問題の嚆矢と今日の環境問題の特徴を解説し、環境教育の理論とESD(Education for Sustainable Development)の考え方を解説し、農業体験や森林・林業体験あるいは地域文化体験や観光・レクリエーション体験などのESDとしての可能性について検討する素養を身につけることを到達目標とする。</p>	
			合意形成デザイン論	<p>地域創成科学の習得に必要な「統合学としての側面」を強調し、地域の空間デザイン、コミュニティデザインの素養と能力の養成を本科目の目的とする。具体的には、1. デザインの基礎、2. 合意形成論・集団的創造によるデザイン手法、3. 地域創成科学との関係、4. 地域における合意形成デザインの実践、5. 観光・レクリエーションデザインなど、主に5つのカテゴリーについて基礎知識を身につけることを到達目標とする。</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育 科目	学科専門 科目	専門基礎 科目	野生動物資源の管理	<p>(概要)</p> <p>野生動物と人との軋轢は、農林業被害をはじめ生態系や生活環境に係る被害まで多岐にわたる。本科目の到達目標は、わが国の野生動物管理において重要な事例を理解し、野生動物管理の基礎を習得することにある。はじめに害虫等の有害生物に対するIPM構築のための各種防除・管理手法を説明する。続いて有害な側面を有する哺乳類や都市鳥類の対策、食料資源や地域資源としての野生動物・昆虫の管理内容を概説する。これら具体的な事例内容を理解しながら、野生動物の管理の考え方とそれを進めるために必要な知識を総合的に身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)(単位認定者:6 竹内 雅俊) (6 竹内 将俊/9回)</p> <p>人との間で軋轢をもたらす野生動物として、害虫類の各種防除方法と総合的な管理を扱い、次に動物資源としての側面と有害動物としての側面双方から、哺乳類と鳥類の個体群管理について具体的な事例を紹介する。また野生動物管理に関連する条約・法規も解説する。</p> <p>(41 飯嶋 一浩/6回)</p> <p>野生動物資源の管理における基本的な考え方や調査項目や手法の選定、調査時に配慮すべき点事柄を学習する。具体的な管理事例については、各種動物分類群の最新情報を紹介するとともに、昆虫類を材料に個体群管理における種間関係の重要性も説明する。</p>	オムニバス方式
		専門コア 科目	農域物質循環論	<p>農林業において高い生産性と小さな環境負荷を両立させるためには、農山村環境内および都市農村間の物質循環を知る必要がある。本科目では特に植物の生長に必要な水、炭素、窒素の循環に注目し、土壤—植物—地下水—大気間の物質の生物、化学的な変化と物理的な移動の現象を理解することを目的とする。さらに現在進められているバイオリサイクル、再生可能エネルギーにも注目し、炭素、エネルギー循環の視点からリサイクルに関する長所や短所を理解し、農山村における物質・エネルギー循環の解析や適切な循環に向けた提案ができるようになることを到達目標とする。</p>	
		地域環境計画学	<p>20年前は地球の環境問題を認識し(See)、計画目標を掲げた(Plan)時代であったが、今はThink Globally Act Locallyといわれるように地域で行動する(Do)時代に移行している。本科目では、地域に軸足を置き、都市農村、国内外の共生・連携・交流のもと、理想の地域共生マスタープランの計画コンセプトを「ちょうどいい“びったり”の風景」と仮定し、都市環境計画、農村環境計画、観光計画、国土環境計画、地球環境計画についての知識とスキルを習得することを到達目標とする。</p>		
		群集生態学	<p>生物種は同種他個体だけでなく、他種とも密接に関係することで生存できる。たとえ農地の耕作種であっても、その生産性には周囲の多様な種が、食害や花粉媒介など様々な場面で大きく影響する。つまり生物多様性保全においても、一次産業においても、種間関係を扱う群集生態学の理解は不可欠である。本科目では、種間相互作用、共存機構、種多様性、植物網、生態系の素過程に関する理論を学び、農林業への応用力を養うことを目標とする。</p>		
		植栽技術論	<p>地域の緑空間を花や緑で創成するうえで、植栽管理技術は必要不可欠である。本科目では、立地環境に応じた植栽とその機能を発揮するための技法を概説するとともに、移植・支柱・剪定・防寒などの植栽や管理の技術を論じる。地域の環境に適した植栽を提案し、また様々な問題点を考察・検討・解決できる能力を養うことを到達目標とする。地域に存在する多様な緑地として、人を呼ぶ緑、伝統の緑、公共の緑、民間の緑の植栽について解説し、続いて空間を構成する植栽材料と機能的な植栽技術について事例を交えながら解説する。</p>		

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育 科目	学科専門 科目	専門コア 科目	農域植生学	地域の景観の特徴すなわち土地利用特性は、その構成要素であり立地環境条件の具現化された自然としての植生によって特徴づけられる。またそれぞれの植生は、そこに分布・生育している植物種によって構成されており、地域的な植物相を反映している。本科目は、農域を論ずる上で不可欠な植生について、その概念、植生類型と環境要因との対応関係、分布、生態、動態、さらに人間の土地利用と植生の構造や種類、配分関係等について学習することを目的とする。また地域創成に当たってそれらの植生情報の有効な利用方法、植生管理技術等についても紹介する。	
			樹木医学概論	(概要) 森林生態系においても都市の生態系においても、樹木は重要な機能を果たしているが、近年はさらに樹木の健全性や安全性に対する社会的要請が高くなりつつある。したがって、自然再生、緑地の創出や管理などあらゆる場面において、樹木の生物学的理解や病虫害、腐朽、防御反応、生体力学、科学的な管理方法などさまざまな分野での高度な知識が求められている。本科目では、これらの基礎的知識を習得することにより、樹木医として社会で活躍できる人材の育成を目指す。  (オムニバス方式/全15回)(単位認定者:2 内田 均) (2 内田 均/9回) 樹木の存在意義、樹形の意味、樹木の気象害、樹木の病気、剪定管理、移植保存などについて論じる。 (69 三戸 久美子/6回) 防衛層システム、世界四大樹病、ナラ枯れ、根系の機能と土壤障害、樹木診断方法、大気汚染の植物影響、土壤管理などについて論じる。	オムニバス方式
			農業基盤工学	地域の基盤施設を効率的に維持管理していくためには、その設計方法と設計時の要求性能を知る必要がある。本科目では、農山村地域に多く整備されている水路工、農道工を題材に、設計時の要求性能と設計法およびストックマネジメントの概要を学ぶとともに、水理学、土質力学に基づく水理設計、安定計算演習を行い、地域基盤施設の維持管理に関するより高度な知識を得ることを到達目標とする。	
			地域環境政策学	本科目では、自然資本と社会資本および産業資本の循環のあり方、地域づくりにおける資本投資と循環型社会のあり方について環境経済学の視点から講義する。また、地球レベルにおける環境問題の嚆矢と産業資本の発達課程における環境問題の発展過程について解説するとともに、各国が進めてきた環境政策の展開過程と国連が示した「グリーン・エコノミ」の方向および循環型社会構築に向けたわが国の環境関連法などについて解説し、常に環境に関心を持ち、意識する「環境学生」を養成することを到達目標とする。	
			農域空間情報論	源流域から中山間地域を経て平野部に至る農域空間を扱う際、その対象地の属性情報(動植物、景観など自然環境要素や法、関わる主体などの社会環境要素)を読み取る技術が求められる。本科目では、属性情報に伴う位置情報を包括的に取り扱う技術の一つである地理空間情報技術を中心に、写真測量、リモートセンシング、GNSS及びGIS、3D化などの応用方法について、実例を交えながら紹介する。各事例および各種技術を通じて、自然環境要素および社会環境要素の両面から空間の構造を理解し、農域環境を診断(解析)できる力を身につけることを本科目の到達目標とする。	
			環境修復論	本科目では、生物を利用した環境修復について、微生物を利用したバイオレメディエーションから植物を利用したファイトレメディエーションまで、その技術開発の歴史や作用機序による分類方法までを様々な事例とともに解説し、土壌圏、水圏、気圏におけるファイトレメディエーション技術について学習する。併せて、環境汚染が起こる経緯や各種環境汚染物質の環境基準値ならびに分析方法についても解説を行い、生物を利用した環境修復を実施するための基礎的な知見を得ることを到達目標とする。	
			作物栽培管理学	作物生産、中でも食用作物生産は地域の経済、生活、文化の基軸であり、地域計画を作成するには、作物栽培技術の知識は不可欠である。本科目では、イネ、雑穀類、ムギ類、マメ類、イモ類など主要な作物について、学名、分類、起源・伝播、形態・生育、栽培、利用に関する基礎的な知識を体系的に習得することを到達目標とする。	
			土壌肥料学	土壌は気候、地質、地形、生物活動の総合として生成され、地域生態系の成立基盤であると共に、一次産業の基盤として人々の生存に重要な役割を担っている。本科目では、土壌の生成、土壌の構成成分、一般的な化学的・物理学的・生物学的諸性質、植物の生長に必要な養分の種類と体内での生理的働き、養水分吸収機構を概説する。次に、肥料の種類、施用方法を解説し、生態系維持や環境汚染との関連から施肥理論と最適施肥体系を議論できる能力を身につけることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育 科目	学科専門 科目	専門コア 科目	農地保全学	持続的な農業のためには、生産性が高く維持される一方で、肥料や水、エネルギーなどの資源投入量が少なく、大気や地下水への環境負荷物質の流出が小さい農地の造成及び保全が必要である。本科目では、農地の生産性および農地からの環境負荷に影響を与える要因を学び、地域の気候や土性に適した農地の造成、保全方法を理解する。さらに近年注目される農地の多面的機能を十分に発揮するための農地の管理法についても学び、任意の農村における農地造成、管理方法を提案できるようになることを到達目標とする。	
			河川水文学	河川は流域水循環の根幹を成し、治水・利水・環境の多岐にわたって地域社会の安全・安心に多大な影響を及ぼす。本科目は、降雨解析や流出解析といった水文学を基礎とし、河川水理、河川計画および水資源計画を通じて、流域一貫した水管理の必要性とその手法について実例を交えながら解説する。河川流域の有する自然的・社会的特性を理解し、それらをふまえた治水利水計画を策定するための基礎的な知識を得ることを到達目標とする。	
			文化産業・観光計画学	地域資源や文化資源を地域創成へと展開させる計画概念や技術手法が求められている。本科目は、地域の社会問題を解決へと導き地域に根ざした文化や暮らしの創成を可能とする文化産業(6次産業化)や観光計画のあり方、観光レクリエーション活動について具体事例を提示しながら解説する。そして、地域資源や文化資源を活用したビジネスモデルや観光計画やレクリエーション活動の企画・立案・プレゼンテーション能力を養うことを到達目標とする。	
	学際領域 科目	地域創成関連法規	(概要) 魅力ある地域づくりを行っていくためには、自然保護法や環境基本法、森林法、河川法、都市計画法など、地域づくりに関連する様々な法規を知り、遵守することが求められる。本科目では、地域づくり関連法規を農業・農村系、自然・生態系、土木・防災系、都市計画系に分類し、それら法規の概要と目的、適用範囲の知識を習得することを到達目標とする。  (オムニバス方式／全15回)(単位認定者:8 本田 尚正) (1 竹内 康／3回) 土木・防災系、都市計画系に関連する法規のうち、道路法とその具体的運用を記した道路構造令、高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律とその具体的運用を記した移動等円滑化基準について、具体的事例を交えながら解説する。 (7 藤川 智紀／3回) 農業・農村系の法規のうち、農地としての土地利用方法を規定する農地法、農地の改良など農業の生産基盤の整備に係る土地改良法およびその周辺の法律について解説し、国や都道府県の進める農業農村整備事業についての理解を深める。 (8 本田 尚正／3回) 土木・防災系に関する法規のうち、主に治水三法(森林法、河川法、砂防法)、海岸法および災害対策基本法を対象として、地域防災を取り扱う上で重要な各法の目的と理念、運用の実態について解説する。 (11 入江 彰昭／3回) 都市計画系の関連法規として都市計画法、景観法、古都保存法、歴史まちづくり法、都市緑地法、都市公園法などの概要と目的、その法制度を活かした地域づくりについて解説する。 (12 下嶋 聖／3回) 法の体系や法律文の読み解き方など法に関する基本的かつ一般的事項を概説する。自然・生態系に係る法規のうち、五個別法をはじめとする国土計画関連の法律と環境法を対象として、これらの法の目的と理念、運用の実態について解説する。	オムニバス方式	
		農と伝統文化	地域社会、特に、農山村社会には、地域で暮らし営むための優れた「知恵」と「技」が培われ、その多くが伝統文化あるいは伝統的文化産業や観光産業として発展してきている。こうした伝統文化が発展するためには、優れた自然資源やそれを大切に保全する考え方を拓き、継承する必要がある。本科目では、わが国の伝統的工芸産業を題材に、地域の資源管理と観光・レクリエーション事業などをふまえた地域づくり(6次産業化)について理解することを到達目標とする。		

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育 科目	学科専門 科目	学際領域 科目	農と健康	地域創生には、「健康寿命を全うしようとする高齢者を、体力に余裕を持った青壮年が支え、時代を担う子どもたちがたくましく育つ」ような地域づくりの仕組みや気運が必要である。本科目では、そうした健康・体力づくりに関する基本的考え方と、実際に先行して行われているレクリエーション事例を多く学ぶ。現実には、地方では、健康保険料や介護負担額の増加が、自治体財政を大きく圧迫し、介護予防・生活習慣病予防・認知症予防・運動器疾患予防がとくに喫緊の課題となっている。医師不足、看護師や介護士の不足の深刻化など、地域社会において避けては通れない、健康やレクリエーションに関する課題を解決していく術を習得ことを到達目標とする。		
			地理情報システム論	地理情報システム(GIS)は、単に電子地図データの管理に留まらず地域解析や景観解析さらに事業・計画の意思決定支援の道具として発展し、21世紀の情報インフラとして必要不可欠な知識・技術となりつつある。本科目ではGISソフトでもっとも汎用性の高いArcGISの操作を通じて、GISの理解を深め、地域を診る際の1つの道具として習得することを目的とする。到達目標は、実践的な作業を通じて、目的のGISデータ(地図)を作成するまでの手順と組み立てを自ら考えて行うことができることとする。		
			環境アセスメント論	地域特性に応じ多様な主体との合意形成を図った環境保全のあり方が求められている。本科目では、環境アセスメントの基本的役割や、地域特性及び事業特性に応じた調査・予測・評価手法を具体事例を交えながら解説する。そして、環境アセスメントにおける意思決定段階やミティゲーションの重要性について理解を深め、観光開発と自然保護などを踏まえ、環境アセスメントの考え方や、評価書作成に必要な調査技術の知識を身に付けることを到達目標とする。		
	総合化科 目			地域交流実習	本科目は、フィールド調査対象地(協定書を交わした自治体、例えば川場村等)での農山村地域の食・農体験を通じた地元住民との交流実習と基礎植物学、野生動物と生息環境等基礎科目の体験実習を兼ねた実習科目である。本科目では、自然環境下での体験実習、地域特有の文化を活かした六次産業化計画、観光計画事例に触れる交流実習を通じて、「農」と「地域創成」の関連性を意識し、多面的に物事を考える素養を習得することを到達目標とする。	集中・共同
				地域創成フィールド実習(一)	本科目では、自然、人為を含めた野外における地域環境の捉え方、すなわち森林・草原・耕作地・市街地・道路など具体的構成要素の把握とそこに生活する生物、地形・地質・土壌等の観察・調査方法等、フィールド調査に必要な基礎的な知識、技能を身につけることを到達目標とする。具体的には、土壌や水の物理性・化学性の分析方法や気象データ分析方法などの実習を行う。また、社会科学的な地域分析から地域プランニングまでの作法についても学習する。	共同
				地域創成フィールド実習(二)	本科目は、1年次の同実習(一)を発展させ、同実習(一)での調査地の自然環境の観測方法と情報整理方法、および自然再生技術を学ぶことを到達目標とする。具体的には、大学周辺の崖線林、河川敷、耕地、市街地などを対象として、植物の採集・標本作成から種の同定、動物・昆虫の観察と生息環境の調査を行うとともに、地形図上へ調査地点をプロットするなどの作図方法を学ぶ。さらに自然再生土・樹木医補取得に向け、樹木の植栽・管理手法を習得する。	共同
				測量実習	距離測量、水準測量、平板測量、コンパス測量、トラバース測量までの一連の測量技術の習得を行う。外業では各測量法の理解と技術の習得を行い、内業では空間スケール毎の図化及び位置情報の取扱手法について学ぶ。本講義の到達目標は、実習を通して各測量法の手順、考えなど手法の違いを理解し、対象のスケールや求めたい成果によって適切に各測量手法を駆使できる力を養うことにある。	共同
				地域創成総合実習(一)	本科目では、地域創成フィールド実習や測量実習で学んだ技術を基礎として、自然環境や社会環境に立脚した地域の特性や地域資源を理解し、地域特有の課題を把握するための調査・分析手法の運用法を習得することを到達目標とする。具体的には、「地域交流実習」の対象地域を調査地として、自然環境・社会環境に関する地域資源調査を実施するにあたって必要となる観察項目や調査時の着眼点、具体的な対象地の抽出等の計画を立て、これに基づいて実地調査を行う。	集中・共同
				地域創成総合実習(二)	本科目では、同実習(一)において抽出・発見された地域が抱える課題の解決や資源の活用に向け、自然環境及び社会環境からの視点に基づく計画の立案等の「地域創成」に資する技術を習得することを到達目標とする。具体的には、グループディスカッションをはじめとする能動的かつ自主的な活動を通じて、地域社会が抱える問題を解決するための土地利用計画や環境アセスメント、観光計画の立案などのトレーニングを行う。	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育 科目	学科専門 科目	総合化科 目	農山漁村インターンシップ	本科目は、地域の再生、活性化に貢献し、地域の力になる人材育成のためのインターンシッププログラム研修である。実際に国内外における都市や農山漁村等の地域に行き、地域の暮らしや生業を肌で体験するとともに地域の仕事と地域文化の関連あるいは自然共存型の暮らしなどを理解することを到達目標とする。具体的な研修先は、役場、農家、農産物加工直売所、森林加工直売センター、道の駅、ビジターセンター、バイオマスセンター、コンサルタント、地元企業、NPO等とする。	集中・共同
			専攻実験・実習(一)	本科目は、保全生態学、地域環境保全学、地域環境工学、地域デザイン学の各研究室で開講する実験・実習科目である。各研究室の専門分野の研究を行うに当たり、必要とされるスキルと知識を身につけるとともに、知識や技術を応用できる能力を習得することを到達目標とする。	共同
			専攻実験・実習(二)	本科目は、同実習(一)に引き続き、各研究室の専門分野のスキルと知識を身につけるための実験・実習科目である。特にこの実習では、卒業論文のテーマ決定とテーマ毎の実験・調査手法の実習を行い、卒業論文への準備とする。本科目では、論理的・多面的に物事を考える能力、プレゼンテーション能力の習得を到達目標とする。	共同
			卒業論文	本科目は、これまでの学習内容から自分自身に興味を持った分野について研究の背景を調べ、実験または調査を実施して新たな知見や結論を導き出す過程を体得する科目で、保全生態学、地域環境保全学、地域環境工学、地域デザイン学の各研究室で開講し、各研究室の専門分野の研究を行う。本科目では、専攻実験・実習(二)の到達目標に加え、自主的・継続的に学習し、与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を習得することを到達目標とする。	

(注)

1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。

2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人東京農業大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度	入学		収容	平成29年度		入学		収容	変更の事由
	定員	編入学定員		定員	編入学定員				
東京農業大学									
農学部		3年次			3年次				
農学科	220	16	912	220	16	912			
畜産学科	180	10	740	180	10	740			
バイオセラピー学科	140	10	580	140	10	580			
応用生物科学部		3年次			3年次				
バイオサイエンス学科	140	10	580	0	0	0	0	平成29年4月学生募集停止	
生物応用化学科	140	10	580	140	0	560	140	定員変更(編入学定員△10)	
醸造科学科	140	20	600	140	0	560	140	定員変更(編入学定員△20)	
食品安全健康学科	140	10	580	140	0	560	140	定員変更(編入学定員△10)	
栄養科学科	120	4	488	120	0	480	120	定員変更(編入学定員△4)	
生命科学部<東京都世田谷区>		3年次			3年次			学部の設置(届出)	
バイオサイエンス学科	140	-	560	140	-	560			
分子生命化学科	115	-	460	115	-	460			
分子微生物学科	115	-	460	115	-	460			
地域環境科学部<東京都世田谷区>		3年次			3年次				
森林総合科学科	140	6	572	120	0	480	120	定員変更(入学定員△20、編入学定員△6)	
生産環境工学科	140	3	566	120	0	480	120	定員変更(入学定員△20、編入学定員△3)	
造園科学科	140	20	600	120	0	480	120	定員変更(入学定員△20、編入学定員△20)	
地域創成科学科	80	-	320	80	-	320	80	学科の設置(届出)	
国際食料情報学部<東京都世田谷区>		3年次			3年次				
国際農業開発学科	140	10	580	140	0	560	140	定員変更(編入学定員△10)	
食料環境経済学科	220	10	900	180	0	720	180	定員変更(入学定員△40、編入学定員△10)	
国際バイオビジネス学科	170	5	690	140	0	560	140	定員変更(入学定員△30、編入学定員△5)	
生物産業学部<北海道網走市>		3年次			3年次			学科の設置(届出)	
生物生産学科	100	10	420	100	10	420			
アグアバイオ学科	80	-	320	80	-	320			
食品香粧学科	80	12	344	80	12	344			
地域産業経営学科	90	5	370	90	5	370			
計	2,520	171	10,422	2,800	63	11,326			

学校法人東京農業大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度 平成29年度 変更の事由

平成28年度	平成29年度	変更の事由
入学 定員	編入学 定員	収容 定員
東京農業大学大学院 農学研究科	東京農業大学大学院 農学研究科	
14	14	28
農学専攻(M)	農学専攻(M)	
24	12	24
畜産学専攻(M)	畜産学専攻(M)	
10	10	20
バイオセラピー学専攻(M)	バイオセラピー学専攻(M)	
30	30	60
バイオサイエンス専攻(M)	バイオサイエンス専攻(M)	
25	25	50
農芸化学専攻(M)	農芸化学専攻(M)	
24	12	24
醸造学専攻(M)	醸造学専攻(M)	
12	12	24
食品栄養学専攻(M)	食品栄養学専攻(M)	
24	12	24
林学専攻(M)	林学専攻(M)	
12	12	24
農業工学専攻(M)	農業工学専攻(M)	
8	8	16
造園学専攻(M)	造園学専攻(M)	
12	12	24
国際農業開発学専攻(M)	国際農業開発学専攻(M)	
24	12	24
国際農業経済学専攻(M)	国際農業経済学専攻(M)	
20	10	20
国際バイオビジネス学専攻(M)	国際バイオビジネス学専攻(M)	
12	12	24
農学専攻(D)	農学専攻(D)	
15	5	15
畜産学専攻(D)	畜産学専攻(D)	
12	4	12
バイオセラピー学専攻(D)	バイオセラピー学専攻(D)	
9	3	9
バイオサイエンス専攻(D)	バイオサイエンス専攻(D)	
18	6	18
農芸化学専攻(D)	農芸化学専攻(D)	
15	5	15
醸造学専攻(D)	醸造学専攻(D)	
6	2	6
食品栄養学専攻(D)	食品栄養学専攻(D)	
6	2	6
林学専攻(D)	林学専攻(D)	
12	4	12
農業工学専攻(D)	農業工学専攻(D)	
6	2	6
造園学専攻(D)	造園学専攻(D)	
9	3	9
国際農業開発学専攻(D)	国際農業開発学専攻(D)	
6	2	6
国際農業経済学専攻(D)	国際農業経済学専攻(D)	
15	5	15
国際バイオビジネス学専攻(D)	国際バイオビジネス学専攻(D)	
15	5	15
環境共生学専攻(D)	環境共生学専攻(D)	
15	5	15
生物産業学研究科	生物産業学研究科	
生物生産学専攻(M)	生物生産学専攻(M)	
14	7	14
アグアバイオ学専攻(M)	アグアバイオ学専攻(M)	
10	5	10
食品香粧学専攻(M)	食品香粧学専攻(M)	
10	5	10
産業経営学専攻(M)	産業経営学専攻(M)	
6	3	6
生物産業学専攻(D)	生物産業学専攻(D)	
24	8	24
計	262	585

学校法人東京農業大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度  
 入学 編入学 収容  
 定員 定員 定員  
 平成29年度  
 入学 編入学 収容  
 定員 定員 定員  
 変更の事由

東京農業大学短期大学部 生物生産技術学科 環境緑地学科 醸造学科	130 70 80	— — —	260 140 160						
計	280		560						
東京情報大学 総合情報学部 総合情報学科	500	3年次 10	2,020						
計	500	10	2,020						
東京農業大学短期大学部<東京都世田谷区>	0	—	0	平成29年4月学生募集停止					
	0	—	0	平成29年4月学生募集停止					
	0	—	0	平成29年4月学生募集停止					
計	0		0						
東京情報大学 総合情報学部 総合情報学科 看護学部 看護学科	400	3年次 10	1,620	定員変更(入学定員△100) 学部の設置(認可申請)					
	100	—	400						
計	500	10	2,020						
東京情報大学大学院 総合情報学研究科 総合情報学専攻(M) 総合情報学専攻(D)	15	—	30						
	3	—	9						
計	18		39						